

令和 5 年度事業報告書

令和 6 年 5 月

横浜市立みなと赤十字病院

目 次

1	概要	1
1-1	施設概要	
1-2	建物図	
1-3	施設基準取得状況	
2	政策的医療	10
2-1	24時間365日の救急医療及び二次救急医療	
2-2	小児救急医療	
2-3	周産期救急医療	
2-4	精神科救急医療	
2-5	精神科身体合併症医療	
2-6	緩和ケア医療	
2-7	アレルギー疾患医療	
2-8	障害児者合併症医療	
2-9	災害時医療	
2-10	市民の健康危機への対応	
3	指定管理者独自の取組	25
3-1	新型コロナウイルス感染症への対応	
3-2	卒後臨床研修評価機構（JCEP）による臨床研修評価	
4	地域医療の質の向上に向けた取組	29
4-1	医療における安全管理（安全）	
4-2	医療における安全管理（感染）	
4-3	医療倫理に基づく医療の提供	
4-4	地域医療機関との連携・支援（医療連携課）	
4-5	地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室）	
4-6	市民委員会	
4-7	治験・受託研究	
4-8	患者・市民に対する相談・啓発活動	
4-9	患者サービス	
4-10	医療データベースの構築と情報提供	

5	職員研修	60
5-1	職員研修（医師）	
5-2	職員研修（看護部）	
5-3	職員研修（薬剤部）	
5-4	職員研修（医療技術部門）	
5-5	職員研修（事務部）	
6	院外からの研修受入れ	71
6-1	院外からの研修受入れ（医師）	
6-2	院外からの研修受入れ（看護部）	
6-3	院外からの研修受入れ（薬剤部）	
6-4	院外からの研修受入れ（リハビリテーション科部）	
6-5	院外からの研修受入れ（救命救急センター）	
7	職員	77
7-1	組織図	
7-2	職員配置状況	
8	施設管理	80
8-1	医療機器の整備状況	
8-2	施設設備改修報告	
8-3	施設設備管理報告	
8-4	外部委託	
9	経営報告	86
9-1	稼働状況等報告	
9-2	中央部門業務報告	
9-3	決算書	

1 概要

1 - 1 施設概要

1 名称

横浜市立みなと赤十字病院

2 開設者

横浜市長（指定管理者として日本赤十字社が運営）

3 開設年月日

平成 17 年 4 月 1 日

4 病床数

634 床（一般 584 床、精神 50 床）

5 標榜科

内科、内分泌内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ科、緩和ケア内科、呼吸器内科、消化器内科、肝臓内科、循環器内科、脳神経内科、アレルギー科、精神科、小児科、外科、消化器外科、大腸外科、肝臓外科、乳腺外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

以上 36 科

6 沿革

- ・平成 15 年 3 月 横浜市立病院あり方検討委員会（横浜市長の諮問機関）が新病院を公設民営とする最終答申を提出
- ・平成 15 年 9 月 横浜市会で新病院運営の公設民営化を決定
- ・平成 15 年 11 月 横浜市が指定管理者評価委員会を設置
日本赤十字社が指定管理者提案申込書を横浜市に提出
- ・平成 16 年 1 月 評価委員会が提案書による競争の結果として、
「指定管理者として日本赤十字社がふさわしい」との
評価報告書を市長に提出
- ・平成 16 年 2 月 横浜市会で日本赤十字社を指定管理者として決定
- ・平成 16 年 9 月 横浜市会で新病院名称を「横浜市立みなと赤十字病院」
に決定
- ・平成 17 年 4 月 横浜市立みなと赤十字病院が開院
初代院長 西岡 清
病床数 584 床、23 診療科

- 瀬谷区にあった横浜市小児アレルギーセンター（平成 17 年 3 月 31 日閉院）の機能を移転
- ・平成 18 年 4 月 精神科診療開始（入院は平成 19 年 5 月から）
 - ・平成 18 年 9 月 地域医療機関向け広報誌「みなとからの風」発刊
 - ・平成 19 年 3 月 病院機能評価 Ver5.0 取得
 - ・平成 19 年 5 月 精神科 50 床運営開始、病床数 634 床
 - ・平成 19 年 7 月 新潟県中越沖地震発生、救護班派遣
 - ・平成 21 年 2 月 地域医療支援病院承認
 - ・平成 21 年 4 月 救命救急センターの指定
 - ・平成 22 年 3 月 神奈川県DMA T 指定病院
 - ・平成 22 年 7 月 第 2 代院長 四宮 謙一 就任
 - ・平成 23 年 3 月 東日本大震災発生、救護班・神奈川DMA T 派遣
災害備蓄倉庫竣工
 - ・平成 23 年 5 月 病院広報誌「みなと赤十字病院だより」発刊
 - ・平成 23 年 11 月 がんセンター、がん相談支援センター開設
 - ・平成 24 年 3 月 病院機能評価 Ver6.0 取得
 - ・平成 24 年 4 月 地域がん診療連携拠点病院の指定
 - ・平成 24 年 7 月 地域周産期母子医療センターの認定
 - ・平成 24 年 11 月 病院広報誌リニューアル、「みんなのみなと」発刊
 - ・平成 25 年 1 月 PET／CT 導入
 - ・平成 25 年 4 月 標榜科を 23 診療科から 36 診療科へ細分化
 - ・平成 26 年 2 月 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」導入
 - ・平成 26 年 3 月 神奈川県DMA T－L 指定病院
 - ・平成 26 年 11 月 海難事故や災害時に、当院ヘリポートの使用を第三管区
海上保安本部と合意
 - ・平成 27 年 4 月 臨床試験支援センター開設
リハビリテーションセンター開設
外傷センター開設
心臓病センター開設
 - ・平成 27 年 9 月 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨発生、
救護班・神奈川DMA T 派遣
 - ・平成 27 年 10 月 カスタマーリレーションセンター開設
新MR I 導入（PHILIPS 社製 Ingenia 3.0T CX）
 - ・平成 28 年 4 月 平成 28 年 4 月熊本地震発生、救護班派遣
 - ・平成 28 年 5 月 東京国際空港（羽田空港）大韓航空機火災事故に救護班
を派遣
 - ・平成 29 年 3 月 病院機能評価（一般病院 2 3rdG : Ver1.1）取得
 - ・平成 29 年 4 月 第 3 代院長 野田 政樹 就任

- 入院支援センター開設
- ・平成 29 年 6 月 人間ドック健診施設機能評価の認定を取得
- ・平成 30 年 2 月 横浜市乳がん連携病院に指定
- ・平成 30 年 4 月 ハイブリット手術室 稼動開始
- D P C 特定病院群に指定
- 入院支援センターを入退院支援センターに組織変更
- ・平成 30 年 9 月 北海道胆振東部地震発生、救護班派遣
- ・平成 30 年 10 月 神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院に選定
- ・平成 31 年 2 月 特定行為研修指定研修機関に指定
- ・平成 31 年 4 月 神奈川県難病医療支援病院に指定
- ・令和元年 6 月 第 4 代院長 伊藤 宏 就任
- ・令和元年 9 月 京急線・トラック衝突事故に神奈川DMA T 派遣
- 令和元年台風第 15 号災害発生、千葉県に救護班派遣
- ・令和 2 年 1 月 がんゲノム医療連携病院に指定
- ・令和 2 年 2 月 新型コロナウイルス感染症に係るクルーズ船対応にDM A T 派遣
- ・令和 2 年 9 月 J M I P（外国人患者受入れに関する認証制度）の認証を取得
- ・令和 2 年 12 月 横浜市認知症疾患医療センターに指定
- ・令和 3 年 7 月 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会時の大会関係者受入れ
- ・令和 4 年 9 月 病院機能評価 一般病院 2 3rdG:Ver. 2.0 / 高度専門機能「救急医療・災害時の医療」Ver. 1.0 認定
- ・令和 5 年 4 月 第 5 代院長 大川 淳 就任
- ・令和 5 年 5 月 J C E P（卒後臨床研修評価機構）の認証を取得
- ・令和 5 年 9 月 J M I P Ver2.1 更新
- 消化器病センター開設
- ・令和 5 年 12 月 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチX i」導入
- ・令和 6 年 1 月 能登半島地震発生、救護班等派遣
- 羽田空港航空機衝突事故発生、救護班派遣

1 - 2 建物図

屋上	ヘリポート
8 階	病棟 コンシェルジュデスク
7 階	A 病棟 B 病棟 C 病棟 D 病棟
6 階	A 病棟 B 病棟 C 病棟 D 病棟 患者図書室
5 階	A 病棟 C 病棟 D 病棟 NICU 透析室 精神科外来 めまい・平衡神経科外来 化学療法センター スキルラボ 理容室 コンビニエンスストア
4 階	電気室・機械室
3 階	管理部門（院長室、副院長室、看護部長室、事務部長室） 救急病棟 ICU HCU 手術室 心臓カテーテル室 医局 医局図書室 看護部 事務部 会議室
2 階	健診センター プレストセンター アレルギーセンター 緩和ケアセンター 放射線科（X線撮影、CT、MRI、血管撮影、心臓カテーテル） 内視鏡検査室 感染管理室 検査部（検体 輸血 病理 細菌） 調度課・SPD MEセンター 栄養課 調理室
1 階	総合内科（内分泌内科、リウマチ科、血液内科） 消化器病センター（消化器内科、外科） 心臓病センター（循環器内科、心臓血管外科） 脳神経センター（脳神経内科、脳神経外科） 麻酔科 呼吸器病センター（呼吸器内科・呼吸器外科） 整形外科 泌尿器科 皮膚科 腎臓内科 耳鼻いんこう科 眼科 小児科 産婦人科 形成外科 歯科口腔外科 リハビリテーション科 薬剤部 中央検査（採血 尿検査 心電図 超音波 筋電図 脳波） 救急外来（受付、診察室、処置室、X線撮影、CT室） 総合案内 入退院支援センター 医療連携センター（療養・福祉相談室、がん相談支援センター、 認知症疾患医療センター） 栄養指導室 初診受付 再診受付 再来受付コーナー 保険証確認窓口 処方箋 FAX コーナー 証明書発行受付 中央待合ホール 自動精算機 正面入口 時間外入口 緩和ケアセンター入口 防災センター レストラン カフェ ATM コンビニエンスストア
B1 階	放射線科（RI リニアック PET/CT） 地下出入口 地下駐車場 霊安室 職員食堂
B2 階	免震ピット

1-3 施設基準取得状況

1 基本診療料

地域歯科診療支援病院歯科初診料 歯科外来診療環境体制加算 2
歯科診療特別対応連携加算 一般病棟入院基本料（急性期一般 1）
急性期充実体制加算 注 2 精神科充実体制加算
救急医療管理加算 超急性期脳卒中加算 診療録管理体制加算 1
医師事務作業補助体制加算 1（40 対 1）
急性期看護補助体制加算（25 対 1 加算 5 割以上）
夜間 100 対 1 急性期看護補助体制加算
看護職員夜間配置加算（12 対 1 加算 1） 療養環境加算
重症者等療養環境特別加算 無菌治療室管理加算 1 緩和ケア診療加算
精神科応急入院施設管理加算 精神病棟入院時医学管理加算
精神科身体合併症管理加算 摂食障害入院医療管理加算
栄養サポートチーム加算 医療安全対策加算 1
感染対策向上加算 1 注 2 指導強化加算
患者サポート体制充実加算 重症患者初期支援充実加算 報告書管理体制加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算 ハイリスク分娩管理加算
精神科救急搬送患者地域連携紹介加算 呼吸ケアチーム加算
術後疼痛管理チーム加算 後発医薬品使用体制加算 1
病棟薬剤業務実施加算 1 病棟薬剤業務実施加算 2 データ提出加算 2
入退院支援加算 1 認知症ケア加算 1 せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算 排尿自立支援加算 地域医療体制確保加算
地域歯科診療支援病院入院加算
救命救急入院料 1
注 2 精神疾患診断治療初回加算 注 3 救急体制充実加算 1 注 6 小児加算
特定集中治療室管理料 1
注 1 算定上限日数に関する基準 注 2 小児加算
注 4 早期離床・リハビリテーション加算 注 5 早期栄養介入管理加算
ハイケアユニット入院医療管理料 1
注 3 早期離床・リハビリテーション加算 注 4 早期栄養介入管理加算
小児入院医療管理料 3 緩和ケア病棟入院料 1 精神科救急・合併症入院料
看護職員処遇改善評価料

2 特掲診療料

ウイルス疾患指導料 外来栄養食事指導料の注 2 に規定する施設基準
心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に規定する遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料 がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ がん患者指導管理料ロ がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料ニ 外来緩和ケア管理料 糖尿病透析予防指導管理料
小児運動器疾患指導管理料 乳腺炎重症化予防ケア・指導料
婦人科特定疾患治療管理料 腎代替療法指導管理料 一般不妊治療管理料
二次性骨折予防継続管理料 1 二次性骨折予防継続管理料 3
下肢創傷処置管理料 地域連携小児夜間・休日診療料 2

地域連携夜間・休日診療料 院内トリアージ実施料
 夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算1
 外来放射線照射診療料 外来腫瘍化学療法診療料1
 連携充実加算（外来腫瘍化学療法診療料） ニコチン依存症管理料
 開放型病院共同指導料 ハイリスク妊産婦共同管理料（Ⅰ）
 がん治療連携計画策定料 外来排尿自立指導料
 ハイリスク妊産婦連携指導料1 肝炎インターフェロン治療計画料
 薬剤管理指導料 医療機器安全管理料1 医療機器安全管理料2
 医療機器安全管理料（歯科） 精神科退院時共同指導料2
 歯科治療時医療管理料 在宅患者訪問看護・指導料
 持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定
 持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
 遺伝学的検査 骨髄微小残存病変量測定 BRCA1/2 遺伝子検査
 がんゲノムプロファイリング検査 先天性代謝異常症検査
 HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
 ウイルス・細菌核酸多項目同時検出 検体検査管理加算（Ⅰ）
 検体検査管理加算（Ⅱ） 遺伝カウンセリング加算
 遺伝性腫瘍カウンセリング加算
 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
 胎児心エコー法 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
 ヘッドアップティルト試験 脳波検査判断料1 単線維筋電図
 神経学的検査 補聴器適合検査 小児食物アレルギー負荷検査
 内服・点滴誘発試験 有床義歯咀嚼機能検査1のⅠ
 有床義歯咀嚼機能検査1のⅡ及び咀嚼能力検査
 ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
 CT撮影及びMRI撮影 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 外来化学療法加算1
 無菌製剤処理料
 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算）
 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算）
 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）（初期加算）
 摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
 がん患者リハビリテーション料 歯科口腔リハビリテーション料2
 認知療法・認知行動療法1
 抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る）
 医療保護入院等診療料
 医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
 医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
 医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
 静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
 エタノールの局所注入（甲状腺） エタノールの局所注入（副甲状腺）
 人工腎臓 導入期加算2及び腎代替療法実績加算
 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
 下肢末梢動脈疾患指導管理加算

手術用顕微鏡加算 CAD／CAM冠及びCAD／CAMインレー
 皮膚悪性腫瘍切除術（センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）
 組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）
 緊急整復固定加算及び緊急挿入加算 椎間板内酵素注入療法
 癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を行うもの）
 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
 仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術（便過活動膀胱）
 緑内障手術（緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）
 内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの） 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）、内視鏡下副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術
 乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）
 乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）
 乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴うもの））
 ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
 食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
 胸腔鏡下弁形成術 胸腔鏡下弁置換術
 経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術）
 経皮的僧帽弁クリップ術 不整脈手術
 左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの） 経皮的中隔心筋焼灼術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
 両心室ペースメーカー移植術（心筋電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（心筋電極の場合）
 両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
 植込型除細動器移植術（心筋リードを用いるもの）及び植込型除細動器交換術（心筋リードを用いるもの）
 植込型除細動器移植術（経動脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経動脈電極抜去術
 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（心筋電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（心筋電極の場合）
 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
 大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）
 経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）

腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方） 内視鏡的逆流防止粘膜切除術
 腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
 バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
 胆管悪性腫瘍手術（臍頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
 体外衝撃波胆石破砕術 腹腔鏡下肝切除術 体外衝撃波臍石破砕術
 腹腔鏡下臍体尾部腫瘍切除術 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
 内視鏡的小腸ポリープ切除術
 腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
 膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
 生体腎移植術
 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
 膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外）、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）
 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
 腹腔鏡下仙骨腫固定術
 腹腔鏡下仙骨腫固定術（内視鏡手術用支援機器を用いた場合）
 腹腔鏡下子宮癒痕部修復術 体外式膜型人工肺管理料
 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1
 医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1
 胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）
 周術期栄養管理実施加算 輸血管理料Ⅰ 輸血適正使用加算
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
 歯周組織再生誘導手術 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
 歯根端切除手術の注3 麻酔管理料（Ⅰ） 注5 周術期薬剤管理加算
 麻酔管理料（Ⅱ） 注2 周術期薬剤管理加算
 放射線治療専任加算 外来放射線治療加算 高エネルギー放射線治療
 1回線量増加加算 強度変調放射線治療加算（IMRT）
 画像誘導放射線治療（IGRT） 体外照射呼吸性移動対策加算
 定位放射線治療 定位放射線治療呼吸性移動対策加算 病理診断管理加算1
 悪性腫瘍病理組織標本加算 クラウン・ブリッジ維持管理料

3 その他

入院時食事療養（Ⅰ） 酸素の購入単価

4 保険外併用療養費

入院医療に係る特別の療養環境の提供

特定機能病院、地域医療支援病院及び外来機能報告対象病院の初診

特定機能病院、地域医療支援病院及び紹介受診重点医療機関の再診

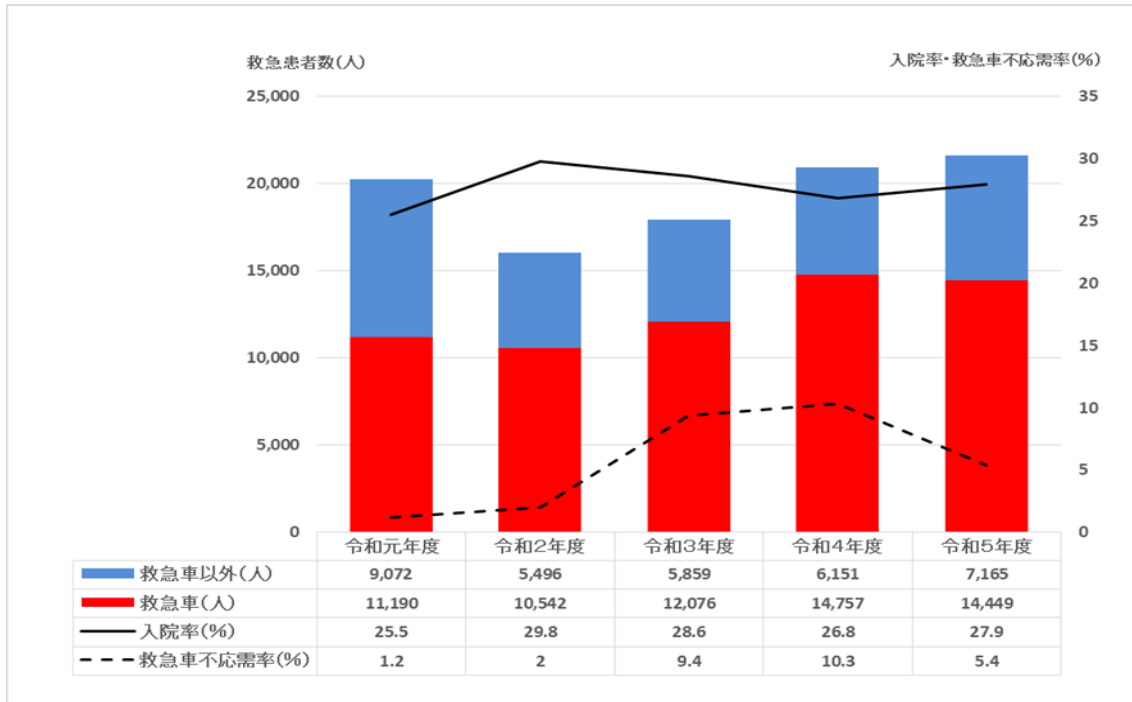
入院期間が180日を超える入院

2 政策的医療

2-1 24時間365日の救急医療及び二次救急医療

1 データ

来院経路別救急患者数と入院率・救急車不応需率



2 成果

令和5年度の救急車による受入患者数は14,449名であり、過去最高となった前年度とほぼ同じ数（2%減少）を維持した。一方、救急車受入要請の不応需率は、過去最高であった前年度から半減し、5.4%となった。数多くの救急車を受け入れたにもかかわらず不応需率が半減したのは、新型コロナウイルス感染症患者が減少したことと、スタッフの不断の努力のために他ならない。救急患者全体の入院率は27.9%と前年度よりわずかに増加した。

令和5年も全国救命救急センター充実段階評価において、最上位のS評価（全国で97施設、横浜市内で6施設）を受け、6年連続のS評価となった。引き続き、救命救急センターの質の向上に努めていきたい。

3 課題

令和4年度以降、横浜市内の救急車搬送困難が著しく増加し、これに伴い遠方から当院への救急車受入要請が著しく増加している。さらには、令和6年度から始まった医師の働き方改革によって、とくに横浜市内の中小規模の救急医療機関において夜間・時間外の救急医療を縮小する動きが見られる。今後も当分は増加が続く高齢者を中心とした救急搬送にいかに対応するかは、当院のみならず今後の地域全体の医療提供体制の課題である。

救命救急センター発足以来の懸案であった当院の救急外来部門の狭隘問題は、今後拡張再整備を予定している。

2-2 小児救急医療

1 データ・成果

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
小児科救急患者数	932 人	1,353 人	1,947 人	2,330 人
うち、入院患者数	113 人	167 人	323 人	365 人
救急車受入件数	444 件	652 件	1,161 件	1,159 件
新入院患者数	679 人	703 人	852 人	967 人
虐待防止対策委員会 (旧：児童虐待防止委員会)	定例会 2 回	定例会 2 回	定例会 2 回	定例会 2 回
	臨時 0 回	臨時 3 回	通告 3 件*	通告 6 件

新型コロナウイルス 5 類移行後、感染症の大流行があり一時的に増加したものの近年の小児人口の減少、予防接種の普及による急性疾患の減少により、救急患者数は減少している。

地域の小児救急患者には適切に対応している。

	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R 元 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
新生児 搬送受入数	12	6	3	3	5	4	4	7

神奈川県周産期医療体制整備計画等により横浜市内のNICUは充足している。また、総合周産期母子医療センター（基幹病院）のNICU増床もあり、基幹病院で受入困難な新生児搬送は減少している。基幹病院のNICUに余裕があるため基幹病院から中核病院へのバックトランスファーも減少していると考えられる。平成29年度にNICU加算2の要件を満たせず同算を取り下げたことにより看護体制が手薄になり、新生児科医の不在により更に受入れが難しくなるなど悪循環となっている。

救急患者は減少しているが、地域では支援が必要な家庭は増加していると推定されている。不適切な療育が疑われる受診には、医療社会事業課を通じ、在住区への情報提供を行っている。

2 課題

予防接種の普及、少子化による小児急性期疾患患者の減少は今後も続くことが予想される。小児科における24時間、365日の小児救急対応に必要な小児科医師数には変わりはないが、患者数の減少による収益減少への対応が課題である。また、当院だけでなく広域な小児救急医療体制の再考が必要になってくる。

2-3 周産期救急医療

1 データ

周産期救急医療は主に母体搬送や新生児搬送であるが、妊娠中の卵巣嚢腫茎捻転、虫垂炎、頭蓋内疾患、感染性疾患もときにある。また、未受診妊婦のいわゆる飛び込み分娩、自宅分娩なども含まれる。更に精神疾患、身体疾患合併妊婦の妊娠中期以降、必要時からの受入れも病病連携または病診連携として行っており、これは広義の周産期救急に当てはまる。

当院の周産期担当（産婦人科、小児科）は「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療に貢献する」という目標を掲げ、診療にあたっている。

平成 24 年 7 月 25 日付で当院は地域周産期母子医療センターに指定され、産科と小児科（NICU）の協力のもと、他の産科施設からの母体搬送の受入れを中心として、周産期に係る比較的高度な医療行為を行うことができる医療施設として横浜市の周産期医療の一翼を担っている。

なお、母体搬送受入れの基準は妊娠 34 週以降、推定体重 1,500g 以上としている。

<母体搬送受入れ数>

2021 年度 13 件
2022 年度 5 件
2023 年度 5 件

<母体搬送数>

2021 年度 6 件
2022 年度 13 件
2023 年度 10 件

<分娩総数>

2021 年度 566 件
2022 年度 554 件
2023 年度 532 件

	救急患者数	救急車受入	入院患者数
2021 年度	563	81	348
2022 年度	519	78	335
2023 年度	472	71	324

2 成果

分娩総数は減少傾向であるが、下げ止まりつつある。

産科は 24 時間 365 日の体制で当直・オンコール体制を組み、緊急手術もいつでも対応できる体制をとっている。これには、産科、小児科のみならず、救急外来、手術室、麻酔科、他科も協力の上で成り立っていることである。

「横浜市民が安心して分娩できる環境を整えることで、地域の周産期医療に貢献する」という、事業目標はおおむね達成していると考えている。

3 課題

ハイリスク妊娠の対応が当院の重要な役割であるので、より充実した体制を作っていきたい。母体搬送の受入数三次救急医療指定機関でもあり、母体救命の体制も充実させたい。この実現にも多分野の連携、充実が不可欠である。

また、無痛分娩、助産師外来、セミオープンシステムによる地域連携での周産期管理などをおこなっているが、さらに顔の見える医療連携を強化し周産期医療の質の向上、満足度の向上を図りたい。

2-4 精神科救急医療

1 データ

令和5年度実績

	受入れ数		入院形態			転帰		
	受診数	入院数	措置	医保	任意	転院	退院	その他
3次救急	20	19	19	0	0	10	7	2
2次救急	8	8	—	8	0	4	3	1

精神科救急受診数の推移（年度別）

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
3次救急	31	34	37	32	24	29	27	22	20
2次救急	13	14	11	8	7	8	6	6	8

2 成果

- ・実施要項に準じて人員を配置し、精神科救急医療を滞りなく行えた。
- ・政策医療とは別に、自殺企図例などで救急病棟より精神科病棟に入院する例も多い。

3 課題

- ・精神科救急医療を掲げているが、実際は身体合併症がある精神科救急患者が選択的に送られてくる問題がある。また、そのような身体合併症があるケースの後方転送が滞る状況が依然続いている。
- ・基幹病院は待機拘束時間が多い割に受入れ患者数は少なくシステムの効率が悪い。救急システムの在り方について各基幹病院、後方病院、行政を交えて意見交換をし、改正していく時期に来ているが動きはない。
- ・救急部を受診したが身体的な問題はなく、精神症状のみ入院適応がある患者がいる。当院の精神科病棟が満床の場合に、受入れ先の調整に苦慮することがある。
- ・精神保健福祉法、特に23条通報に関する警察の理解ならびに診察命令を出す行政の理解認識と現場の感覚にずれがあり、自傷他害のおそれが高くても通報がされず現場での対応に困ったり、通報されても措置診察にならずソフト救急に乗ってくるなどの問題点があるため基幹病院、行政、警察の定期的な意見交換が必要である。

2－5 精神科身体合併症医療

1 データ

		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
3 病院入院数		85	56	67
当院受入れ数		66	65	59
当院入院数		50	48	53
平均在院日数		24.4	21.3	17.8
転帰	依頼元病院	41	41	47
	他病院	2	4	3
	退院	1	1	1
	入院中	1	1	0
	死亡	5	1	2

2 成果

- ・平成 20 年度以降、当院の年間の受入れ数は身体合併症転院事業の 7～8 割にあたるが、令和 5 年度も入院総数の 8 割以上を受け入れることができた。
- ・この他、時間外に行政を介さずに受け入れた症例もある。

3 課題

- ・引き続き、身体科医師の協力体制のもとで同事業を円滑に進める。
- ・保護室が必要な症例に関して、精神科救急ベッドの空床状況によっては受入れが困難になる場合がある。

2-6 緩和ケア医療

1 データ

(1) 緩和ケアチーム実績

		令和3年度	令和4年度	令和5年度
緩和ケアチーム への依頼数	新規	141 件	187 件	180 件
	継続	3 件	7 件	9 件
	延べ件数	2166 件	3027 件	2735 件

緩和ケアチームへの依頼内容

疼痛・嘔気・呼吸困難などの身体ケア 98%
せん妄・抑うつ・不眠などの精神的ケア 2%

(2) 緩和ケア専門外来実績

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
初診	9 件	6 件	10 件
再診	83 件	81 件	108 件
延べ件数	91 件	87 件	118 件

緩和ケア専門外来への依頼内容

疼痛 100%

(3) 苦痛のスクリーニング実績

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
病棟	484 件	518 件	532 件
外来	865 件	642 件	653 件
合計	1349 件	1160 件	1185 件

2 成果

- ・緩和ケアリンクナース会を中心に、令和4年度に引き続き緊急入院患者への苦痛のスクリーニングを強化し取り組みを行い、病棟でのスクリーニング件数は維持～やや向上することができた。
- ・入院中の患者への緩和ケアについて、多職種で目標設定及びケアについてのカンファレンスの実施を勧奨し、チーム医療での緩和ケアを提供した。

- ・心不全をはじめとする非がん患者への緩和ケア介入も積極的に行っている。
- ・外来化学療法室、放射線治療室と緩和ケアチームが情報を共有し、治療に応じた緩和ケアを提供した。
- ・緩和ケアの質の向上のため、緩和ケア研修会を令和 5 年 12 月に開催した。
- ・連携病院と協働し、地域の医療・介護福祉職を対象に「みんなの緩和ケア勉強会」を令和 6 年 3 月に実施し、地域における緩和ケアの啓発・普及を行った。

3 課題

- ・苦痛のスクリーニングの実施を継続的に勧奨し、患者の苦痛のアセスメントを早期より行う風土を維持し、専門的緩和ケアが必要な対象の早期抽出に努める。
- ・連携する地域の医療機関との緊密な情報連携を通して、患者への切れ目のない医療の提供を継続する。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により病院間や地域を交えた交流の機会が減少していたが、緩和ケアに関する研修・勉強会や講習会の企画回数を増やし、地域での緩和ケアの活性化の起点となれるよう取り組む。
- ・令和 6 年 4 月から緩和ケア病棟を再開したため、今後、実績を報告していく。

2-7 アレルギー疾患医療

1 データ（令和2年度～令和5年度比較）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
外来アレルギー患者数（延べ数）	21,600 人	20,128 人	20,514 人	20,789 人
呼気一酸化窒素測定	1,958 件	1,530 件	1,904 件	2,305 件
気道過敏性試験	0 件*	0 件*	0 件*	1 件
プリックテスト	215 件	152 件	119 件	108 件
エピペン処方数	547 件	528 件	582 件	609 件
喘息カンファレンス	0 回*	0 回*	6 回	6 回
食物・薬物アレルギーカンファレンス	0 回*	2 回	6 回	6 回
食物アレルギー研修	21 回	63 回	51 回	25 回
講演会	1 回	1 回	1 回	1 回
みなとセミナー	1 回	1 回	1 回	1 回
市民フォーラム	0 回*	1 回	1 回	0 回*
患者教室	0 回*	8 回	8 回	8 回
小児喘息キャンプ	0 回*	0 回*	0 回*	0 回*
誌上発表	23 件	14 件	7 件	7 件
学会発表	29 件	27 件	13 件	9 件
新薬開発治験	8 件	5 件	5 件	13 件
自主臨床試験	7 件	1 件	4 件	13 件

* 新型コロナウイルス感染予防のため中止

2 成果

COVID-19 禍でも、保育所や学校等からの相談、市民への情報提供、啓発活動が継続して行えるよう、対面だけではなく、動画配信やリモートを併用し実施した。

診療においては、喘息の診断や病状把握に必要であるが COVID-19 禍では控えていた呼吸機能検査などを再開した。また近年増えつつある食物アレルギー患者、アナフィラキシーの既往のある患者については、当院救急部からの入院患者や、地域の医療機関からの紹介も増え、エピペン処方・指導数は増加している。

臨床研究については、継続中の ARMS 研究（遠隔医療）と EARTH 研究（環境アレルギー）の組み合わせによる「個別喘息予報」を平成 28 年度より配信開始し、患者の個別データをさらに活用できるよう取組を進めている。

平成 30 年 10 月に選定された神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院として、神奈川県および川崎市からのアレルギー疾患政策医療への協力要請にも対応している。

以前に設置済の大型アレルギー検査機器は令和 5 年 10 月から稼働し、院内で特異的 IgE 抗体検査を行えるようになった。これにより以前よりも早く検査結果が出るようになっている。今後項目数を順次増やしていく予定である。

3 課題

日本専門医機構の新専門医制度では、未だアレルギー専門医の認定が始まっていないが、引き続きアレルギー科、呼吸器内科、皮膚科、耳鼻咽喉科、リウマチ内科のアレルギー専門医・指導医、リウマチ専門医・指導医の確保と育成に努めることにより市民の需要に応じていく。

アレルギー患者のパーソナルヘルスレコードのアプリの開発中。アレルギーセンターのホームページを新しく作成しなおす予定である。

2-8 障害児者合併症医療

1 データ

	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度
入院患者延べ人数	51 名	37 名	292 名	444 名
入院患者実人数	4 名	4 名	9 名	9 名
1 患者あたり 入院回数	1～4 回	1～4 回	1～3 回	1～4 回
年 齢	6～29 歳	7～30 歳	3～31 歳	3～32 歳
メディカルショー トステイ利用者数	3 名	5 名	4 名	4 名
障害児者委員会	年 3 回 開催	年 2 回 開催	年 2 回 開催	年 2 回 開催

2 成果

当院において行われる障害児者への医療提供が円滑に行われることを目的とし、障害児者医療検討委員会を開催し、その内容を検討した。また、重度心身障害児者の理解を深めるため、障害児者医療検討委員会発信で、メディカルショートステイについてのポスターを作成し、広報活動を行った。

3 現状と課題

障害児者医療への職員の研修啓発に努めるとともに、地域の障害児者医療を担う医療機関との連携を図りながら、横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの協力病院として対象患者の受入れを継続する。

2-9 災害時医療

1 救護活動等の状況

(1) 医療救護班等の派遣状況

ア 横浜市災害医療アドバイザー

横浜市新型コロナウイルス対策医療調整本部（Y-CERT）へ横浜市災害医療アドバイザー1人を随時派遣。

イ 横浜救急医療チーム（YMA T）の出動状況

横浜市内の救急・事故事案等に7件出動

(2) 災害救護に関する訓練・研修会等への実施・参加状況

ア 当院主催訓練・研修

- ・横浜市立みなと赤十字病院総合防災訓練 1回 120人
- ・救護車両運転訓練 3回 18人

イ 赤十字関連訓練・研修

- ・救護班主事基礎研修 1回 9人
- ・救護班要員教育訓練 1回 9人
- ・日本赤十字社第2ブロック支部総合訓練 1回 1人
- ・救護員としての赤十字看護師養成研修 2回 2人
- ・こころのケア研修 1回 18人

ウ 行政等主催訓練・研修

- ・九都県市総合防災訓練 2回 15人
- ・大規模地震時医療活動訓練 1回 5人
- ・神奈川県災害時通信訓練 10回 43人
- ・防災行政通信網受電訓練 3回 3人
- ・ビッグレスキューかながわ 1回 9人
- ・中区防災講演会 1回 3人
- ・神奈川県原子力災害医療基礎研修 1回 1人

エ 他団体、他機関主催訓練・研修

- ・在宅災害支援研修 1回 2人
- ・航空機事故対処総合訓練 1回 8人
- ・DMAT 隊員養成研修 3回 3人
- ・神奈川 DMAT-L 隊員養成研修 2回 5人
- ・かながわ DPAT 隊員養成研修 1回 4人
- ・災害支援ナース養成研修 1回 2人
- ・DIEMAS 訓練 2回 2人
- ・放射線・テロ災害医療セミナー 1回 1人
- ・DMORT 研修 1回 1人
- ・第三級陸上特殊無線技士 2回 2人
- ・フォークリフト操縦資格 2回 2人
- ・テールゲートリフター 1回 3人

(3) 救護体制及び主要資機材

ア 医療救護班

- ・救護班 7 班（医師 7 人、看護師 21 人、薬剤師 7 人、主事 14 人）
- ・日本DMAT3 チーム^{注1}（医師 3 人、看護師 7 人、業務調整員 3 人）
- ・神奈川DMAT-L3 チーム^{注2}（医師 4 人、看護師 4 人、業務調整員 7 人）
- ・かながわDPAT 隊員 12 人（医師 1 人、看護師 6 人、業務調整員 5 人）
- ・YMAT（横浜救急医療チーム） 隊員 29 人（医師 13 人、看護師 16 人）

※注1：日本DMATのチーム数は、日本DMAT活動要領の「DMAT 1 隊の構成は、医師 1 人、看護師 2 人、業務調整員 1 人の 4 人」に基づき、同時に編成が可能なチーム数。

※注2：神奈川DMAT-Lのチーム数は、神奈川DMAT-L運営要綱の「医師、看護師、業務調整員からなる 1 チーム 5 人編成を基本とする。」に基づき、各職種最低 1 人以上で同時に編成が可能なチーム数。

イ 救護資機材等

救急車 2 台、救援車両 3 台、救護班用医療セット 1 式、DMAT標準医療資機材 1 式、YMAT資機材 1 式、日赤業務無線機等 22 台、神奈川県MCA無線 1 台、横浜市MCA無線 1 台、衛星電話 1 台（庁舎設置）、衛星携帯電話 2 台、（可搬型 1 台、救急車積載 1 台）、デジタル個人線量計 28 台、簡易ベッド 540 台、NBC災害除染セット 1 式、ドラッシュテント 1 式、エアテント 1 式、イーザーアップテント 5 式、発動発電機 6 台、大容量ポータブル蓄電池 2 台、下水直結型災害用トイレ 5 基、患者用非常食 3 日分、職員用非常食 3 日分

2 成果

- ・災害に係る各種隊員養成研修に参加し、日本DMAT、神奈川DMAT-L、かながわDPAT、YMAT（横浜救急医療チーム）の隊員を増員することができ、災害や救急への対応がより強固となった。
- ・災害に係る訓練や研修会に積極的に参加し、災害時に必要な技能の維持や新しい知識などを習得することができた。

3 課題

災害時に関係機関が連携して活動するためには、日頃から顔の見える関係を築いておくことが重要と言われている。

当院でも関係機関との訓練、研修、会議等を通じ、日頃から地域の関係者と顔の見える関係を構築し、災害時には災害拠点病院としての機能を発揮して地域の災害医療の貢献できるよう取り組んできた。

首都直下地震や南海トラフ地震対策強化や近年増加している局所的な水害などの対応などと並行していかに地域や機関と連携をしていくか、また、人材の育成や技能の維持向上について関係機関と共に検討する。

※令和 6 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震への対応については、
「3-2 令和 6 年能登半島地震への対応」にて記載しています。

2-10 市民の健康危機への対応

1 データ・成果

(1) 新型コロナウイルス感染症（C O V I D-19）対応

横浜市立病院として高度医療機関、協力病院の指定のもと、市中発症の新型コロナウイルス感染症の患者対応を行ってきたが、5類感染症となった後も入院患者の受入れにあたっては、重症患者、中等症患者の入院受け入れを行い、市内の流行状況に合わせて最大 I C U ・ H C U で 12 床、呼吸器病棟（6 B 病棟）で 25 床の対応病床を用意した。また周産期（5 C 病棟）病床を 2 床、小児（5 D 病棟）病床を 1 床確保し、受け入れを行った。

院内の C O V I D-19 によるクラスター発生はなかった。

※データは、3-1 新型コロナウイルス感染症への対応 を参照。

(2) 新型インフルエンザ等対策等

抗インフルエンザ薬について、院内での抗インフルエンザ薬使用状況を考慮し、薬剤ごとの備蓄割合（薬局備蓄含む）を再検討した。

2 課題

5類感染症となった新型コロナウイルス感染症対応は、流行状況を加味しながら、クラスター発生に留意しつつ、平時の医療として対応していく。

新型インフルエンザ等対策訓練等については、横浜市新型インフルエンザ等対策医療関係者連絡協議会等と連携して、必要に応じて資器材・抗インフルエンザ薬の整備・備蓄を進める。

3 指定管理者独自の取組

3-1 新型コロナウイルス感染症への対応

1 データ

令和5年度の新型コロナウイルス感染症関連の入院患者は、累計で261人（陽性258人、陰性3人）（令和5年4月1日～令和6年3月31日）だった。

I C U・H C U病棟で重症患者、呼吸器内科病棟等で中等症患者を主に受け入れており、神奈川県病床確保フェーズに合わせて確保病床数を変更した。

医師については、感染症専門医のフォローを受けながら、救急部、集中治療部、呼吸器内科等の医師が診療を行った。

看護師については、感染管理認定看護師のフォローを受けながら、6 B病棟、I C U病棟等の看護師が対応にあたった。

新型コロナウイルス感染症等の新興感染症の感染が拡大した状況でも、多くの救急患者を適切に受入れるために救急外来環境改善工事を計画し、工事に関する入札を令和4年9月と令和5年7月に行ったが不調となったため、現在、3回目の入札に向けて準備を進めている。

	重症			中等症			合計		
	陽性	陰性	合計	陽性	陰性	合計	陽性	陰性	合計
令和4年4月	0	0	0	7	0	7	7	0	7
5月	2	0	2	17	0	17	19	0	19
6月	1	0	1	16	0	16	17	0	17
7月	3	0	3	21	1	22	24	1	25
8月	5	0	5	34	1	35	39	1	40
9月	4	0	4	40	1	41	44	1	45
10月	1	0	1	8	0	8	9	0	9
11月	1	0	1	3	0	3	4	0	4
12月	2	0	2	9	0	9	11	0	11
令和5年1月	5	0	5	29	0	29	34	0	34
2月	4	0	4	24	0	24	28	0	28
3月	2	0	2	20	0	20	22	0	22
合計	30	0	30	228	3	231	258	3	261

※陰性は疑いも含む

2 成果

コロナ禍であっても、『重症度に関わらず救急患者を受け入れる「断らない救急」を実践し、地域医療に貢献する』の理念を基に、新型コロナウイルス感染症の対応と並行して、通常の救急患者の受入についても積極的に行った。

横浜市の医療調整本部（Y-CERT）へ医師を派遣するなど地域の新型コロナウイルスの感染症対策に引き続き参画したほか、新型コロナウイルスの感染症の対応を検討する院内会議を定期的に行き、県内の新型コロナウイルス感染状況に合わせて病院の対応方針を適宜見直して対応にあたった。

3 課題

新型コロナウイルス感染症対策を基に新興感染症の対応や、通常のを可能な限り断らないで受け入れるための一般病床の確保と調整について継続して検討する。

災害時においても感染症患者並びに感染症を疑う患者の病院へ受け入れる際の、エリアの区分、動線など、感染症に対応した患者の受け入れ態勢の検討を継続して行う。

3-2 令和6年能登半島地震への対応

1 データ

令和6年1月1日に発生したマグニチュード7.6、最大震度7の地震災害に対し、救護班等を派遣し医療救護活動等を実施した。

(1) 赤十字救護班（医師、看護師、薬剤師、事務員、ボランティア）

- ・第1班 令和6年1月4日～8日 石川県珠洲市 10人
- ・第2班 令和6年1月28日～2月1日 石川県珠洲市 14人
- ・第3班 令和6年2月18日～22日 石川県珠洲市 13人

(2) 日本赤十字社災害医療コーディネートチーム（医師、看護師、事務員）

- ・第1班 令和6年1月4日～8日 石川県珠洲市 3人
- ・第2班 令和6年1月21日～27日 石川県珠洲市 2人

(3) こころのケア班（こころのケア要員、事務員）

- ・第1班 令和6年3月8日～14日 石川県輪島市 5人

(4) 医療機関支援（看護師）

- ・令和6年2月26日～3月2日 石川県輪島市 1人
- ・令和6年3月9日～14日 石川県輪島市 1人
- ・令和6年3月25日～30日 石川県輪島市 1人

2 実績

急性期・亜急性期から慢性期にかけて被災地のニーズに基づき、派遣形態を変更しつつ継続的に救護班等の派遣を行った。

日ごろの訓練や研修を生かし、医療救護、避難所アセスメント、急変患者対応、患者搬送、救護班活動調整、災害対策本部等との連絡調整や報告、関係機関との協議、被災者や支援者へリラクゼーション提供、こころのケア、被災医療機関支援など、自己完結型の災害救護活動を行い被災地での救護活動の一翼を担った。

3 課題

発災初期に同時に2つの医療救護班を派遣することができたが、さらに増班や増員を求められた際にも対応できるよう要員の育成や必要な資機材の整備を引き続き行う。発災直後の院内の指示命令系統と連絡手段をより明確化し、初動対応の強化を図る。

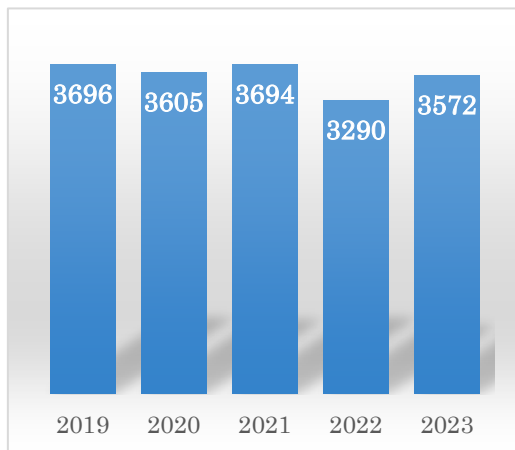
4 地域医療の質の 向上に向けた取組

4-1 医療における安全管理（安全）

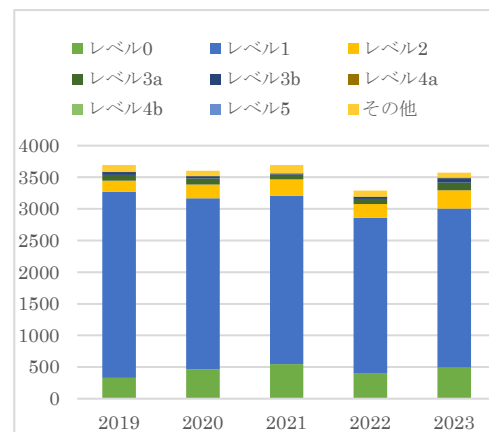
1 データ

- (1) 令和5年度のインシデントレポート報告件数は3,572件であった。
- (2) インシデントレポート年間報告件数は前年度より282件増加した。特にレベル3b以上の報告件数が69件となり、46件増加した。職種別では医師からの報告が3倍に増加した。
- (3) 令和5年度の内視鏡検査・治療における重症症例の報告件数は21件であった。

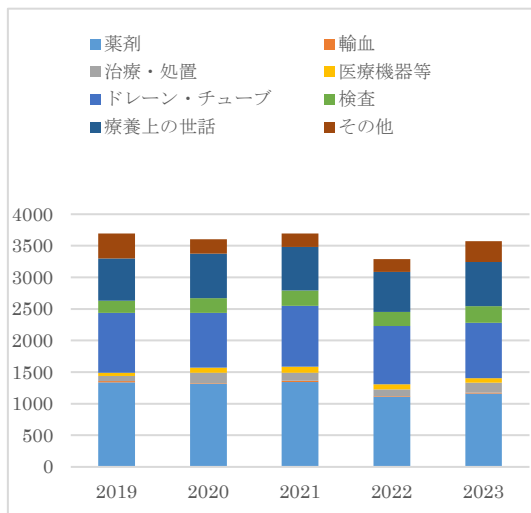
■ 年度別総報告数



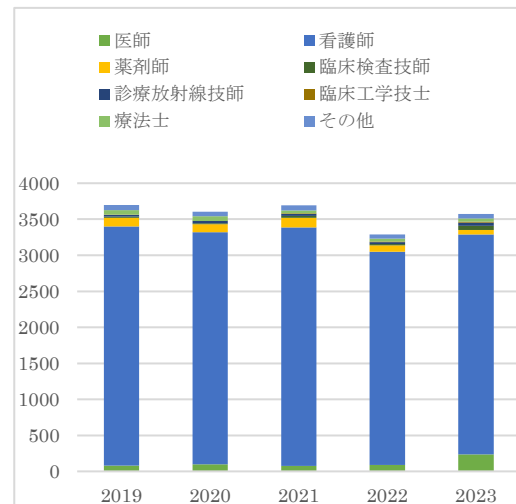
■ レベル別報告



■ 項目別報告数



■ 職種別報告



2 成果

- (1) インシデントレポートのレベル 3b 以上の件数増加については、項目別で見ると治療・処置が増加していたことから、合併症の報告が適切になされていた結果である。
- (2) 医療安全管理委員会と RM 委員会は、毎月 1 回開催した。
- (3) 医療事故調査支援センターへの報告は 3 件実施した。
- (4) 患者影響度の高い事例に関する事例検討会を年 22 回開催した。
- (5) 医療安全推進室主催の M&M カンファレンスを 1 件実施した。
- (6) コードハリーメディカルラリー（急変対応研修）を 1 回実施した。
- (7) 令和 5 年度全職員対象安全研修会を 2 回実施した。第 1 回目は電子カルテでの研修、第 2 回は対面式とした。参加率は、それぞれ 100% と 95.8% であった。
- (8) 医療職対象医薬品医療機器安全研修会を 1 回実施した。
- (9) 新任 RM 対象の安全研修会を全 8 回開催した。
- (10) 安全管理マニュアルを令和 5 年 5 月に改訂した。
- (11) 全職員に対する医療安全情報の提供を目的とし、医療安全 News の発行を開始した。
- (12) RRS- I 運用マニュアルの RRS 担当医師の PHS がつながらない場合の連絡先を修正し院内周知した。
- (13) RRS- II の運用マニュアルに基づき、重症患者対応コンサルテーションチームが対応するシステムを立ち上げ活動開始した。
- (14) CVC チームでライセンス制度の運用マニュアルを再検討し運用開始に向けた体制構築を行った。
- (15) 報告書管理チームでは、放射線、病理レポートの未読防止対策として未読レポートを追跡する仕組みを構築し運用を開始した。
- (16) 患者影響度の少ないインシデントレポートから患者安全を導き出す目的でインシデントレポート活用チームを立ち上げ、活動方法を検討した。
- (17) モニターアラーム対応適正化チームによる生体モニターアラーム対応の現状調査と分析を実施し、各部署へフィードバックした。
- (18) 与薬・転倒転落に関する定期調査を実施した。

3 課題

- (1) インシデント・アクシデントレポート報告件数の増加
- (2) 医師によるインシデント・アクシデントレポート報告件数の維持
- (3) 医療安全研修や講演会への参加率向上
- (4) RRS- II の周知と活用の推進
- (5) 放射線、病理レポートの報告書未読対策の継続
- (6) 患者誤認防止（特に、外来患者における患者誤認防止対策）
- (7) レベル 0 事例を活用したインシデント未然防止の推進

4-2 医療における安全管理（感染）

1 データ

抗菌薬適正使用支援

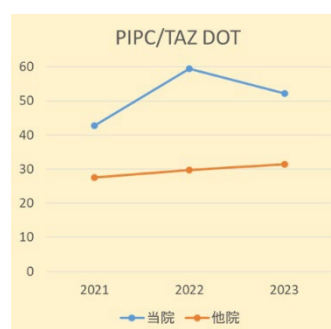
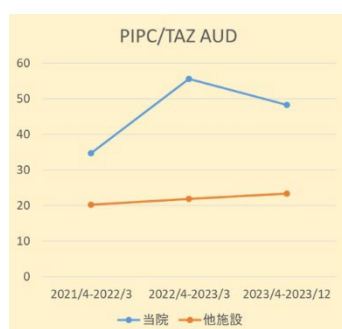
(1) 介入件数および受託率

年度	2021	2022	2023
介入件数（件）	146	225	462
受諾（％）	111（76）	182（81）	381（82）
一部受諾（％）	12（8）	8（3）	27（6）
拒否（％）	16（11）	30（13）	51（11）
その他（％）	7（5）	5（2）	3（1）

(2) 転帰

年度	2021	2022	2023
介入件数（件）	122	171	451
退院・転院（％）	113（93）	152（89）	400（89）
死亡（％）	9（7）	19（11）	51（11）

(3) ピペラシリン・タゾバクタムの AUD/DOT（3 年推移）



対象感染研修会実施状況

	第 1 回 (7 月)	第 2 回 (2 月)
テーマ	感染予防と標準予防策 ～知っておきたい基礎知識～	感染対策の概論 抗菌薬を大事に使おう AMR に立ち向かうために 感染対策シュミレーション 新興感染症編
受講率	100%	100%

2 成果

(1) 平時の感染管理

- ・感染制御チームにより院内巡回を年間 51 回実施した。部署の問題点を明らかにし、改善に向けて取り組みを行った。
- ・院内すべての職員に対して感染研修会を実施した。

(2) 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・5 類移行後も感染拡大防止に留意し、最新の知見に基づきマニュアルを更新した。
- ・看護師・メディカルスタッフ・委託職員などあらゆる職種を対象に防護具着脱訓練を行った。

(3) サーベイランス

- ・JANIS 検査部門サーベイランスに参加できた。感染症発生動向を監視し耐性菌検出時は、タイムリーに現場の感染対策を確認できており、アウトブレイクを起こさなかった。
- ・医療器具関連感染サーベイランス（SSI・CLABSI）を実施し、日常的に感染症の発生状況を把握した。ベンチマークデータを他施設と比較し感染対策の改善に向けて活動した。

(4) 地域連携

- ・感染対策向上加算Ⅱ・Ⅲ、外来感染対策向上加算連携施設と4回/年の合同カンファレンスを実施し感染症におけるトピックスを連携施設へ情報提供することができた。また、新興感染症を想定したレクチャーとして防護具着脱訓練を行った。
- ・連携施設へ現地訪問し、感染対策ラウンドを実施した。連携施設が抱える感染対策上の問題点について検討し改善につなげることができた。
- ・同規模病院と相互ラウンドを行い自施設の感染対策を見直す機会とした。

(5) 抗菌薬適正使用支援チーム

- ・2023 年度より AST 専従として AST 活動開始したためか、介入件数は倍増した。
- ・受託率は横ばいから微増し、退院・転院などの転帰は横ばいで推移した。
- ・AST がバンコマイシンの TDM を担う体制（AST-TDM）を 2022/8～開始し、一般病棟のバンコマイシン使用症例については全例介入した。
- ・J-SIPHE のデータ登録を 2023/4 より開始し、院内での抗菌薬使用量などの評価を開始した。
- ・当院の現状として特にピペラシリン・タゾバクタムの使用量および投与日数が他施設と比較し高値であることが明らかになった。

3 課題

- (1) サーベイランスからデータ分析を行い、感染対策の質向上に努める。
- (2) 標準予防策・感染経路別予防策周知徹底のため職員教育を継続して行う。
- (3) 地域連携を継続して行い、地域の感染管理活動に貢献する。
- (4) J-SIPHE の登録項目の拡大を検討する。
- (5) ピペラシリン・タゾバクタムの適正使用に介入する方法を検討する。

4-3 医療倫理に基づく医療の提供

1 データ

令和3年度・令和4年度 医療倫理委員会実績

	令和3年度	令和4年度
検討数	61件	80件
開催回数 開催日等 (参加人数)	第1回 4月30日～5月14日 第2回 6月11日～6月23日 第3回 10月1日～10月15日 第4回 12月3日～12月17日 第5回 2月4日～2月18日 ※全て文書審議にて開催	第1回 5月6日～5月20日 第2回 7月1日～7月15日 第3回 9月2日～9月16日 第4回 10月21日～11月4日 第5回 12月16日～1月5日 第6回 2月17日～3月3日 ※全て文書審議にて開催

令和5年度医療倫理委員会実績 検討数 93件

開催日 (参加人数)	NO	議題	結果
第1回医療倫理委員会 4月21日 ～5月10日 (文書審議)	1	irAE 関連肝障害（重症例）に対するセルセプト（ミコフェノール酸モフェチル）の使用について	承認
	2	irAE 腸炎（重症例）に対するレミケード（インフリキシマブ）の使用について	承認
	3	重症心不全・心原性ショックに対する IMPELLA 挿入術	承認
	4	臨床倫理委員会規程の一部変更について	承認
	5	新しい手技・手術等審議申請書の一部変更について	承認
	6	重症患者において抜管後の栄養投与経路の変更が及ぼす影響	承認
	7	コロナ禍前・初期・3年目で生活習慣病関連因子はどのように変化したか	承認
	8	回復期リハビリテーション病院転院した急性期脳卒中患者の補助栄養摂取効果の検討	承認
	9	N-アセチルシステインを投与された急性アセトアミノフェン中毒患者における下痢誘発因子の検討	承認
	10	日本における大腿骨近位部骨折の適正治療を目指したナショナルデータベースの作成	承認
	11	下部消化管内視鏡検査における横行結腸挿入困難例に対する右側臥位の浸水法の有用性の検討	承認
	12	診断が遅延した感染性心内膜炎の検討	承認
	13	当院における鈍的外傷による腸管膜損傷症例の検討	承認

	14	口腔乾燥感を有する患者に対する口腔湿潤ジェル：キュオムウェットプラスの効果に関する研究	承認
	15	運動機能障害の原疾患が複数合併してしないか検討する	承認
	16	直腸癌における術前 MRI 画像診断に関する多施設共同後ろ向き・前向き観察研究	承認
	17	同時多項目アレルギー検査用体外診断用医薬品の開発	承認
	18	新型コロナウイルス感染症の病態理解と治療法検討のための多施設共同研究	承認
	19	悪性リンパ腫の予後に関する多施設共同後方視的研究	承認
	20	発作性心房細動アブレーションにおける2つのクライオバルーンシステムを比較する前向き多施設無作為化研究	承認
	21	令和5年度脳死判定医リストの作成について	承認
第2回医療倫理委員会 6月30日 ～7月14日 (文書審議)	22	最大径5mm以上のワイドネック型脳動脈瘤に対する頭蓋内動脈ステント留置術	承認
	23	脳動脈瘤コイル塞栓術時におけるニューロフォームアトラス、エンタープライズVRD、LVISステントの使用について	承認
	24	大腸癌患者を対象とした抗EGFR阻害薬投与に伴う低マグネシウム血症発現状況の把握	承認
	25	繰り返す生命危機を経て面会制限中の集中治療室で終末期に移行する患者の家族に対する予期悲嘆へのケア	承認
	26	リウマチ・膠原病診療におけるワクチン医療と遠隔医療に関する意識調査(別称 神奈川県リウマチ・膠原病患者アンケート)	承認
	27	医師の働き方改革にむけて～AST 薬剤師主体のバンコマイシン注(VCM)投与設計とオーダー入力のタスクシフティング効果の検証～	承認
	28	A prospective cohort study to assess obstructive respiratory disease phenotypes and endotypes in Japan (the TRAIT study). 日本における閉塞性肺疾患のフェノタイプ及びエンドタイプを評価することを目的とした前向きコホート研究 (the TRAIT study)	承認
	29	関節リウマチを対象とした日常診療下におけるサリルマブの前向き観察研究 PROFILE-J : PROspective sarilumab(preFILLed syringe/pen)Pobservatinal study - Japan	承認
	30	切除不能幹細胞癌に対するアテゾリズマブ+ベバシズマブにTACE療法を追加することの有効性検証する多施設共同第Ⅲ相臨床研究	承認

	31	A prospective cohort study to assess obstructive respiratory Disease phenotypes and endotypes in Japan(the TRAIT study). 日本における閉塞性肺疾患のフェノタイプ及びエンドタイプを評価することを目的とした前向きコホート研究 (the TRAIT study)	承認
	32	SATAKE・hotBalloon カテーテル使用持続性心房細動患者に対する全国観察研究	承認
	33	POLARx™心臓冷凍バルーンアブレーションシステム市販後臨床研究 POLAR SMART	承認
	34	化学療法歴のある HER2 低発現の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたトラスツズマブ デルクステカンの多機関共同前向き観察研究	承認
第3回医療倫理委員会 9月1日 ～9月15日 (文書審議)	35	透析シャント機能低下に対する経皮的血管拡張術	承認
	36	末期腎不全患者への生体腎移植	承認
	37	透析シャント機能低下に対するステントグラフト内挿術	承認
	38	腹膜透析の除水量増加を目的としたダパグリフロジンの使用について	承認
	39	患者本人の医療同意能力がなく、意思決定代理人もいない患者の治療方針について	承認
	40	臨床倫理委員会への申請フローの改訂について	承認
	41	適応外・禁忌使用医薬品の倫理上の分類フローチャートの改訂について	承認
	42	集中治療室に入室した急性呼吸窮迫症候群患者が受けている ICU ケアを調査する国際多施設前向き観察研究 ～The ICU LIBERATION Study～	承認
	43	COPD における実際の治療パターンと患者報告アウトカム (REMIND) 受けている吸入薬治療が異なる COPD 患者の健康状態調査を目的とした日本における COPD コホート研究を用いた二次的データベース研究	承認
	44	「乳がん腋窩リンパ節郭清術後患者における Q-DASH を用いた肩関節可動域制限の因子の検討」―術後一年間のプロトコール介入の結果を用いて―	承認
	45	切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ+ベバシズマブに TACE 療法を追加することの有効性検証する多施設共同第 III 相臨床研究	承認
	46	切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ+ベバシズマブに TACE 療法を追加することの有効性検証する多施設共同第 III 相	承認

		臨床研究	
	47	RAS 野生型進行大腸癌患者における FOLFOXIRI+セツキシマブと FOLFOXIRI+ベバシズマブの最大腫瘍収縮率 (DpR) を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験 (JACCRO CC-13)	承認
	48	切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ+ベバシズマブに TACE 療法を追加することの有効性検証する多施設共同第Ⅲ相臨床研究 (契約締結)	承認
	49	切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ+ベバシズマブに TACE 療法を追加することの有効性検証する多施設共同第Ⅲ相臨床研究 (利益相反状況の確認)	承認
第4回医療倫理委員会 10月20日 ～11月2日 (文書審議)	50	生物学的製剤を必要とする難治性喘息の臨床的検討	承認
	51	日本膜性増殖性糸球体腎炎/C3 腎症コホート研究	承認
	52	非発作性心房細動に対する心房細動基質アブレーションの妥当性を検証する前向き無作為化研究	承認
	53	化学療法歴のある HER2 低発現の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたトラスツマブデルクスステカンの多機関共同前向き観察研究	承認
第5回医療倫理委員会 12月22日 (対面審議：委員8名、陪席者1名、申請者2名)	54	海外渡航移植についての当院の方針	幹部 会議へ 上申
	55	ロボット支援下結腸切除術について	承認
	56	上部尿路上皮癌に対するロボット支援腎尿管全摘除術	承認
	57	腎癌に対するロボット支援根治的腎摘除術	承認
	58	多職種臨床倫理カンファレンスのテンプレートの運用について	承認
	59	過敏性肺炎の全国疫学調査	承認
	60	心房細動に対するクライオバルーンアブレーションにおける separate freezing の治療成績の検討	承認
	61	バンコマイシン注における当院ノモグラムの有用性の評価	承認
	62	集中治療室での AST 薬剤師を主体にしたバンコマイシン注の TDM から処方・検査代行入力までの取り組み	承認
	63	PONV 術中予防投与プロトコルの導入と薬剤師による介入が PONV 発生率へ及ぼす影響	承認
	64	非定型大腿骨骨折の発症要因の解明	承認
	65	腹臥位造影 CT における左心耳造影効果と非発作性心房細動に対するカテーテルアブレーションの予後との関連性	承認
	66	超音波による上腕筋肉量評価を組み合わせる 急性期 GLIM-criteria 栄養アセスメントの開発	承認

67	当院における自然気胸に対し手術療法を要した症例の後方視的検討	承認
68	非糖尿病性低血糖症における原因及び予後因子の検討	承認
69	非イオン性ヨード造影剤によるアレルギー様反応回避のための予防薬の有用性評価とその発現要因の探索	承認
70	直接経口抗凝固薬投与中患者の上部消化管出血に対するプロトンポンプ阻害薬（PPI）の予防効果の検証と上部消化管出血のリスク因子の探索	承認
71	POLARxTM 心臓冷凍バルーンアブレーションシステム市販後臨床研究 POLAR SMART	承認
72	A prospective cohort study to assess obstructive respiratory disease phenotypes and endotypes in Japan (the TRAIT study). 日本における閉塞性肺疾患のフェノタイプ及びエンドタイプを評価することを目的とした前向きコホート研究（the TRAIT study）	承認
73	SATAKE・HotBalloon カテーテル使用持続性心房細動症例に対する全国観察研究	承認
74	化学療法歴のある HER2 低発現の手術不能又は再発乳癌患者を対象としたトラスツズマブ デ ルクステカンの多機関共同前向き観察研究	承認
75	関節リウマチを対象とした日常診療下におけるサリルマブの前向き観察研究 PROFILE-J: PROspective sarilumab (preFILLED syringe/pen) Pobservational study - Japan （他院で審議、承認となった変更事項及び安全性報告の確認）	承認
76	関節リウマチを対象とした日常診療下におけるサリルマブの前向き観察研究 PROFILE-J: PROspective sarilumab (preFILLED syringe/pen) Pobservational study - Japan （他院で審議、承認となった変更事項及び安全性報告の確認）	承認
77	関節リウマチを対象とした日常診療下におけるサリルマブの前向き観察研究 PROFILE-J: PROspective sarilumab (preFILLED syringe/pen) Pobservational study - Japan （他院で審議、承認となった変更事項の確認）	承認
78	関節リウマチを対象とした日常診療下におけるサリルマブの前向き観察研究	承認

		PROFILE-J: PROspective sarilumab (preFILLED syringe/pen) Pobservational study - Japan (他院で審議、承認となった変更事項及び安全性報告の確認)	
	79	関節リウマチを対象とした日常診療下におけるサリルマブの前向き観察研究 PROFILE-J: PROspective sarilumab (preFILLED syringe/pen) Pobservational study - Japan (他院で審議、承認となった変更事項及び安全性報告の確認)	承認
	80	関節リウマチを対象とした日常診療下におけるサリルマブの前向き観察研究 PROFILE-J: PROspective sarilumab (preFILLED syringe/pen) Pobservational study - Japan (他院で審議、承認となった変更事項及び安全性報告の確認)	承認
	81	関節リウマチを対象とした日常診療下におけるサリルマブの前向き観察研究 PROFILE-J: PROspective sarilumab (preFILLED syringe/pen) Pobservational study - Japan (他院で審議、承認となった変更事項及び安全性報告の確認)	承認
第6回医療倫理委員会 2月16日 ～2月26日 (文書審議)	82	委員会規程の改訂（標準化）について	承認
	83	当院における海外渡航移植患者の受け入れ状況について	承認
	84	腎移植後急性拒絶反応の治療を目的としたリツキシマブの使用について	承認
	85	非発作性心房細動に対するクライオバルーンを用いたカテーテルアブレーションにおける、異なる治療戦略の有効性、安全性に関する比較検討	承認
	86	リアルワールドでの心房細動アブレーションの周術期抗凝固療法と周術期出血性・塞栓性合併症の関連の検討	承認
	87	左房内血栓症マネジメントに関する後ろ向き研究	承認
	88	クライオバルーンを用いた心房細動治療で、完全閉塞でも肺静脈の電氣的隔離に至らなかった症例の後ろ向き研究	承認
	89	当院 Rapid Response System 起動の原因となった気道異常の特徴：10年間の解析	承認
	90	A prospective cohort study to assess obstructive respiratory disease phenotypes and endotypes in Japan (the TRAIT study).	承認

		日本における閉塞性肺疾患のフェノタイプ及びエンドタイプを評価することを目的とした前向きコホート研究 (the TRAIT study)	
	91	心臓植え込み装置のリード抜去症例の実態調査	承認
	92	Dual atrioventricular nodal non-reentrant tachycardia caused by the leftward inferior extension of the antegrade slow pathway: Validation of the dual atrioventricular nodal physiology by adenosine triphosphate injection during atrial pacing	承認
第7回医療倫理委員会 2月27日～3月5日 (文書審議)	93	情報紛失の研究に対する当院における取り扱いについて	該当 研究は 不承認

2 成果

- ・全7回開催のうち、1件が対面開催、6件がメールによる文書審議となった。
- ・例年通りに自主臨床研究審査委員会からの申請が全て報告事項であった場合、メールによる文書審議の形で開催した。
- ・臨床研究法及び院内手順に則り、実施施設にて必要な院長の承認及び報告手続きを行い、管理者に報告した。
- ・規程取りまとめ部署からの要請に応え、医療倫理委員会・臨床倫理委員会・自主臨床研究審査委員会の委員会規程を指定フォーマットへ標準化した。
- ・臨床倫理委員会の下部組織として「意思決定支援ワーキンググループ」を組織した。次年度はチーム化し、取り組みを強化する。

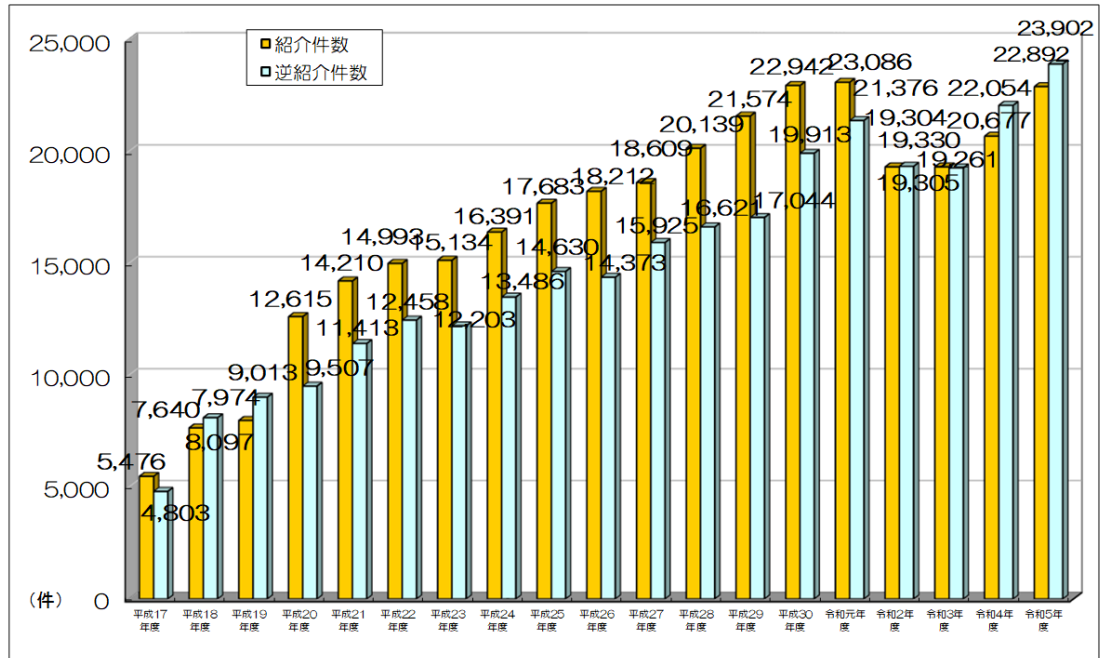
3 課題

- ・自主臨床研究審査委員会の事務局業務を円滑化するため、倫理審査システムの導入を検討する。
- ・臨床倫理に関する研修会の受講率向上。

4-4 地域医療機関との連携・支援（医療連携課）

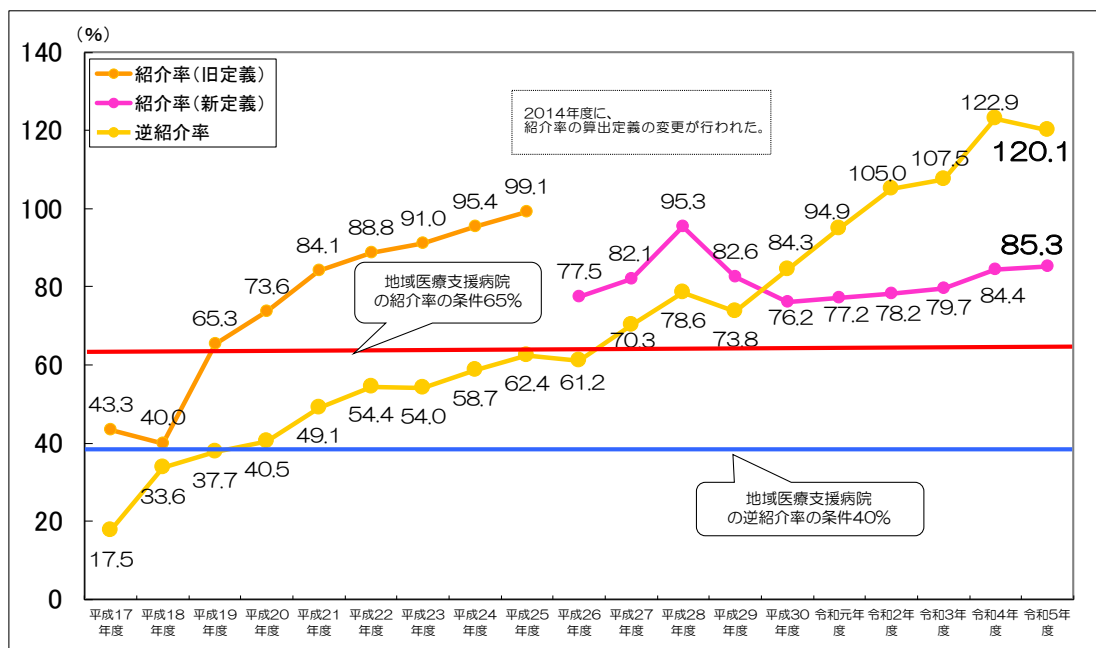
1 データ

紹介件数・逆紹介件数年度推移



（令和5年度）

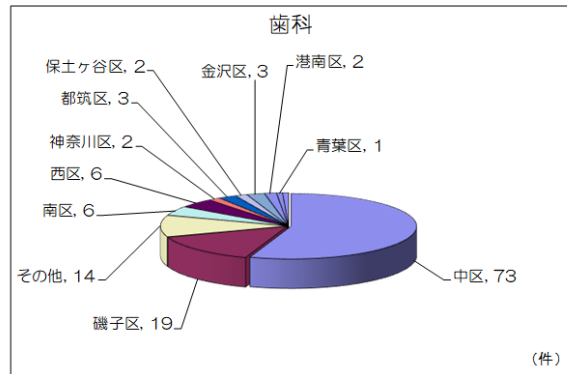
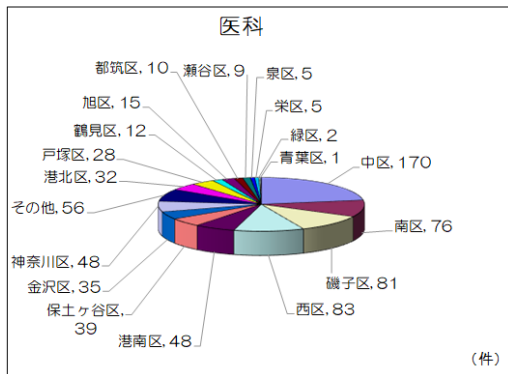
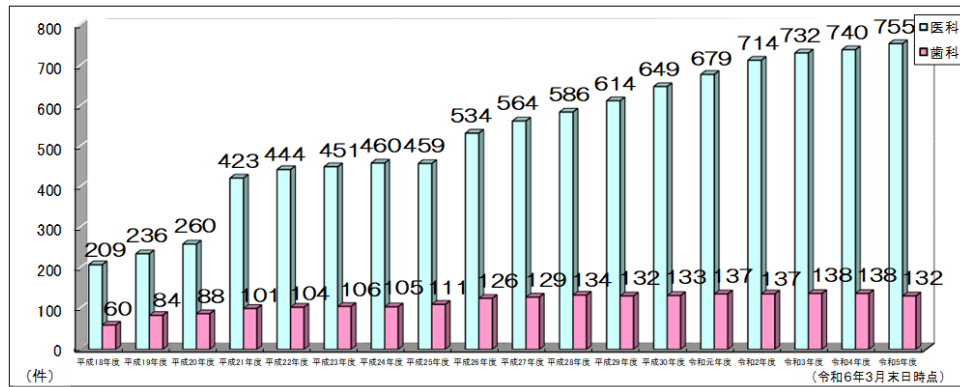
紹介率・逆紹介率年度推移



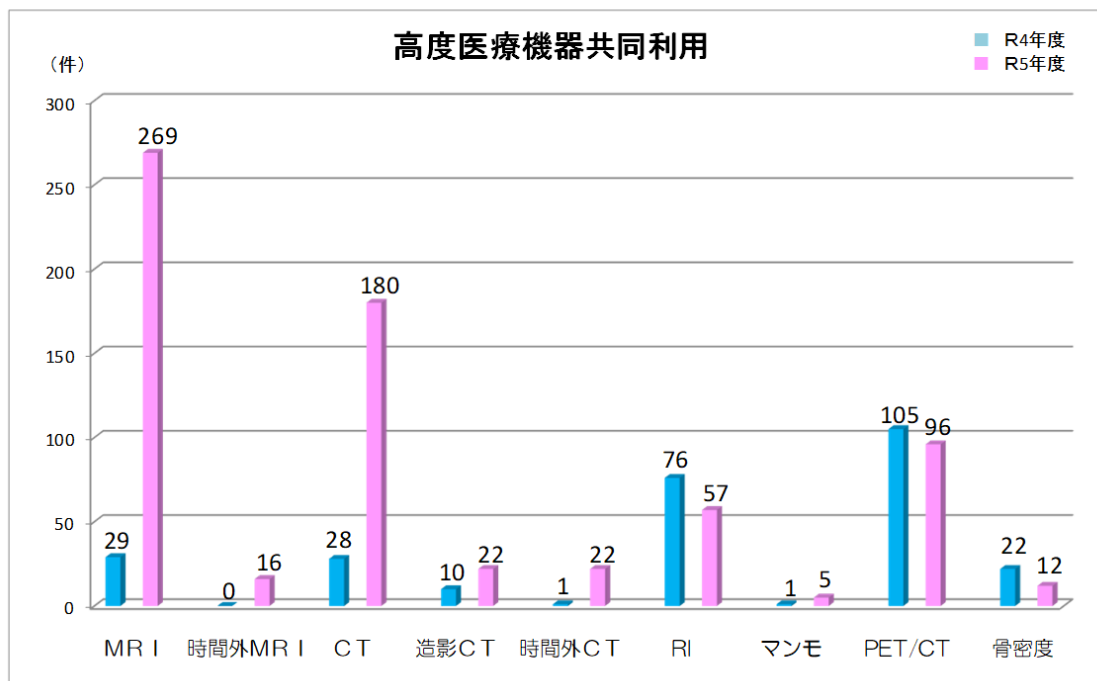
※医療法に基づく地域医療支援病院の紹介率及び逆紹介率計算方式

（令和5年度）

登録医登録状況

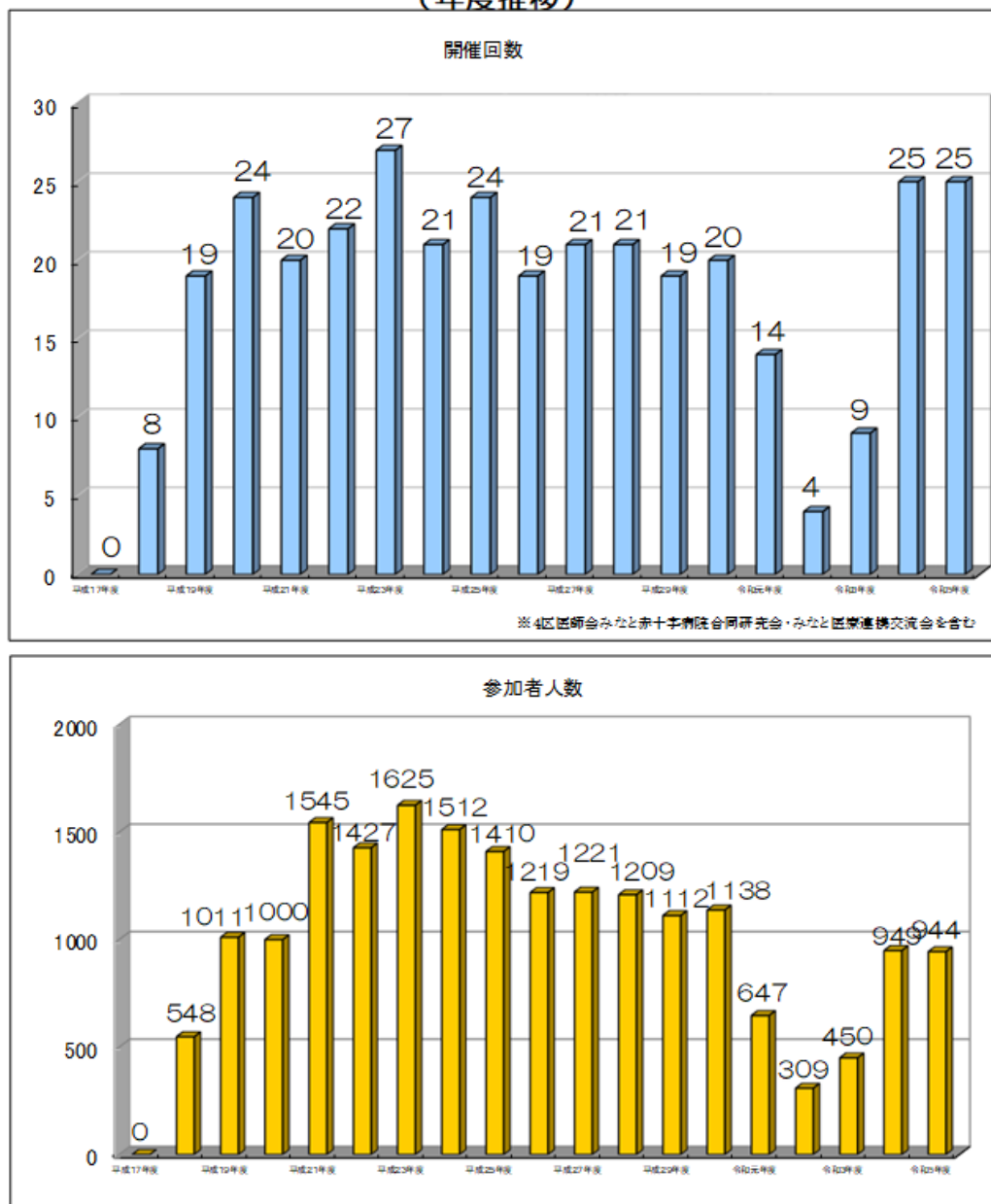


(令和5年度)



地域の医療従事者に対する研修実施状況 (年度推移)

(令和5年度)



2 成果

医療連携課では、地域医療機関の窓口として「顔の見える連携」を心がけ、地域医療機関との医療機能の分担と連携を推進し、紹介・逆紹介の向上に努めた。

紹介件数は22,892件で、前年度より2,215件増加した。コロナ前の令和元年度に対し99%まで回復した。逆紹介23,902件は開院以来最高値となった。

紹介率・逆紹介率については前年を上回り、地域医療支援病院の指定要件を充たした。

また、地域医療従事者向け研修は、コロナ禍オンライン開催など工夫を凝らし、年間25回開催し、地域医療の質向上を図った。

3 課題

令和3年度末に放射線科読影医退職により、放射線共同利用の読影が不可となり、利用件数が低下した。改善を行い、6月より読影を再開し、地域医療の質の向上に努めた。

今年度も、地域医療支援病院として、地域医療機関との顔の見える連携を構築し、医療連携の質向上に努める。

4-5 地域医療機関との連携・支援（療養・福祉相談室）

1 データ

<相談室業務>

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
相談件数	5,682 件	5,729 件	8,839 件
がん相談件数	2,120 件	2,080 件	2,732 件

<算定件数>

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入退院支援加算	7,272 件	7,763 件	11,237 件
入院時支援加算	1,539 件	1,485 件	4,209 件
介護支援連携指導料	190 件	226 件	629 件
退院時共同指導料 2	91 件	122 件	228 件
多機関共同指導加算	25 件	45 件	57 件
大腿骨頸部骨折パス	35 件	27 件	34 件
脳卒中パス	43 件	44 件	60 件
誤嚥性肺炎パス	3 件	3 件	7 件
歯科医療機関連携 1	113 件	76 件	112 件
歯科医療機関連携 2	65 件	43 件	23 件

<地域連携会議>

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
横浜脳疾患地域連携 懇話会セミナー	開催せず	2月9日（Web）	2月15日（Web）
横浜脳卒中リハ連携 研究会	第1回6月23日	第1回6月8日	第1回6月21日 第2回11月29日
神奈川脳卒中広域シ ームレス医療研究会 セミナー	神奈川 STROKESUM MIT として 12/19 Web	開催せず	開催せず
脳卒中地域連携パス 合同委員会			第1回10月2日 第2回12月20日 第3回3月27日
大腿骨頸部骨折地域 連携パス合同委員会	第1回7月5日 第2回10月25日 第3回令和4年 5月16日、17日	第1回10月20日 第2回1月19日 第3回3月16日	第1回5月25日 第2回10月26日 第3回2月22日

誤嚥性肺炎地域連携 パス合同委員会	第1回 9月14日	第1回 9月29日	第1回 6月8日
	第2回 12月2日	第2回 2月1日	第2回 9月21日
	第2回 3月31日	第3回 3月31日	第3回 12月7日

＜周術期歯科口腔ケア対象患者数＞

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
院内歯科	255件	345件	626件
院外歯科	113件	76件	112件

＜療養・福祉相談室 主催/共催研修＞

10月18日	セルフマネジメント ～よりよい在宅療養支援をめざして part17～	主催
--------	---------------------------------------	----

2 成果

(1) 療養・福祉相談の実績報告（資料①）

入退院支援センターで入院前からの支援に関し新規取り組みを行い、入退院支援加算件数・入院時支援件数が増加した。そのため、医療社会事業課としての取扱人数年度実績件数も増加した。次年度も、質を維持し取り組みを継続したい。

(2) 地域関係機関との取組（資料②）

ア 行政機関や在宅介護関係機関の会合、中区区レベル地域ケア会議、「かいごのWā！なか」の会合に参加し、在宅療養支援に関する情報交換及び情報の共有を図った。

イ 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムでは行政を通して8件の相談があり、4件受入れを行った。

ウ 全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会主催の総会や研修会にオンラインで参加した。

エ 精神科医療に関する活動として、中区障がい者自立支援部議会や精神障害にも対応した地域包括ケアシステム検討会に参加し、地域との連携を図った。また、今後もさらに精神科救急医療/身体合併症システムの円滑な運用を継続したい。

オ 介護連携や退院時共同など地域関係機関とのカンファレンス件数は大きく増加（資料①）

カ 横浜市歯科医師会と連携し、入退院支援センターにおいて周術期口腔機能管理の定着をはかった。

キ みなとセミナー「介護と医療の連携を考える」を開催した。

ク 横浜市児童虐待防止医療ネットワークに毎年3回参加し、市内小児救急

病棟と児童虐待防止に向けた取り組みについて情報交換を行った。

ケ 認定・専門看護師の地域に向けた活動について周知しておりさらに地域貢献に勤めたい。

コ 病棟・行政と連携したハイリスク妊産婦連携指導料算定のシステムを構築しており、合同カンファレンスを6回25件開催し、算定取得につなげた。

(3) 専門職育成への取組

院外からは1名の社会福祉学生の実習、7名の看護学生の実習、16名の横浜市医師会ケアマネジャー医療研修、2名の国際医療福祉大学在宅看護学生の実習、3名の神奈川県看護協会相互研修、院内看護部からクリニカルリーダー「退院支援コース」研修者を16名受け入れた。

(4) 専門職としての研鑽

がん相談支援センター相談員研修の(3)を1名、受講をしている。また1名が認定がん専門相談員の資格を有し、継続学習をしている。

3 課題

(1) 入退院支援マニュアルに沿った療養支援を病院全体で推進し、地域を巻き込みながら老いや病気を抱えた患者や家族に対し、包括的な支援の実施。

(2) がん拠点病院に必要とされるがん相談支援センターの体制を強化。

(3) 横浜市重症心身障害児者メディカルショートステイシステムの院内外との連携推進。

(4) 各区医師会 在宅医療連携室との連携を推進。

(5) 中区地域包括ケア指針におけるアドバンスト・ケア・プランニングや緩和ケアの推進に向けた取組を医師会、歯科医師会、薬剤師会、行政、病院、地域の介護・医療関係者などと実施する。

資料①

(1)取扱人数

件数	実件数
年度実件数	8,839 件
継続実件数	231 件
新規実件数	入院 7,763 件 外来、その他 1,076 件
年度延件数	34,181 件

精神科入院相談件数	188 件
-----------	-------

がん相談	実件数	2,732 件
	延べ件数	3,080 件
	(対面)	2,329 件
	(電話)	751 件
	(その他)	0 件

*算定

入退院支援加算1 (700点)	11,237 件
入院時支援加算 (230点)	4,209 件
介護支援連携指導料 (400点)	629 件
退院時共同指導料2 (400点)	228 件
多機関共同指導加算 (2000点)	57 件
保険医共同指導加算 (300点)	15 件
小児加算(入院時支援加算) (800点)	607 件
精神科退院指導料(320点)	64 件

*地域連携パス実施状況

大腿骨頭部骨折パス	34 件
脳卒中パス	60 件
誤嚥性肺炎パス	7 件

(2)新規ケースの紹介経路

区分	実件数
医師	647 件
看護職	7,062 件
リハビリ職	0 件
その他院内職員	36 件
本人	166 件
家族・親戚縁者	174 件
院外関係機関	627 件
医療チーム	0 件
近隣者・知人	1 件
ソーシャルワーカー	126 件
合計	8,839 件

(3)新規ケース介入の時期

区分	実件数
受診前	305 件
外来	765 件
入院前	4,554 件
入院中	3,209 件
その他	6 件

(4)新規ケースの社会的背景

区 分	実件数
独居	2,077 件
経済困窮	235 件
家族疎遠・身寄りなし	549 件
ハイリスク妊産婦	39 件
精神疾患	784 件
認知症	660 件
家庭内暴力・虐待	72 件
自殺企図	79 件
無保険	27 件
身元不明	6 件
ホームレス	10 件
外国人	182 件
合計	4,720 件

(5)相談援助調整内容

※当年介入ケース

※日報

内容	実件数	延件数
受診・受療	430 件	813 件
経済的問題	211 件	784 件
制度活用	351 件	709 件
入院療養生活	4,592 件	4,614 件
退院支援(在宅・転院・施設入所)	7,636 件	21,988 件
在宅療養・看護	4,877 件	9,759 件
医療者との関係	35 件	60 件
家族関係	35 件	21,988 件
日常生活	4 件	10 件
就労・就学	49 件	134 件
身元保証・権利擁護	170 件	533 件
死後対応	12 件	14 件
その他	23 件	44 件
合計	18,425 件	61,450 件

(6)援助方

※日報

方法	延件数
面接	本人 13,235 件
	家族 6,040 件
	友人・知人 177 件
電話	本人 212 件
	家族 6,446 件
	友人・知人 155 件
訪問	家庭 4 件
	その他 0 件
同行・同伴・代行	12 件
連絡調整・院内	27,052 件
連絡調整・院外:面会	352 件
連絡調整・院外:電話	20,348 件
連絡調整・院外:文書・FAX・mail	4,624 件
カンファレンス(院内職種のみ)	3,290 件
カンファレンス(院外職種含む)	545 件
合同カンファレンス(院内職種のみ)	125 件
合同カンファレンス(院外職種含む)	169 件
合計	82,786 件

(7)チーム医療

腎臓内科カンファレンス	0 件
乳腺チーム	408 件
児童虐待防止委員会	40 件
虐待防止対策委員会	43 件
ハイリスク妊産婦カンファレンス	25 件
緩和チーム	268 件
行動制限最小化委員会	155 件
外来ケモカンファレンス	55 件
認知症ケアチーム	0 件

(8)転帰先

※当年退院ケース

区分	実件数
一般病院	331 件
回復期リハビリテーション病院	404 件
包括ケア	215 件
療養型病院	81 件
精神病院	144 件
介護老人保健施設	48 件
特別養護老人ホーム	132 件
有料老人ホーム	296 件
グループホーム	52 件
緩和	8 件
在宅	5659 件
死亡	233 件

※当年介入ケース

苦情	22 件
認知症疾患医療センター相談件数	142 件

1 地域連携分野

内容	回数
かいごのWal'なか	10
横浜市児童虐待防止医療ネットワーク(YMN)	4
大腿骨頸部パス合同会議	3
誤嚥性肺炎パス合同会議	3
脳卒中パス合同会議	3
中区医療・介護連携推進会議	2
磯子区在宅医療を語る会	2
中区多職種事例検討会	2
メディカルショーステイト調整委員・実務者委員合同会議	2
横浜中央病院 地域医療交流会	1
横浜市立大学附属市民総合医療センター 地域医療連携交流会	1
中区障害者自立支援協議会代表者会議	1
かいごのWal'なか 総会及び研修会	1
認知症疾患医療センター研修兼連絡会	1
第25回 横浜脳卒中・リハ連携研究会(Y-CIRCLE)	1
西区医師会訪問看護ステーション研修会	1
中区要保護児童対策連絡会	1
多職種間連携会議(西区)	1
西区高齢者虐待防止事業連絡会	1
中区生活支援センター運営連絡会	1
南区在宅療養支援ネットワーク会総会	1
日赤東部ブロック医療連携実務者研究会	1
中区障害者自立支援協議会	1
横浜市民病院交流会	1
中区要保護児童対策協議会構成機関支援者研修	1
横浜脳卒中・リハ連携研究会(Y-CIRCLE)	1
神奈川県がん医科歯科連携研修会	1
中区精神保健福祉業務連絡会	1
磯子中央病院地域医療連携会	1
中なかかいネ!	1
中途障害者支援事業連絡会	1
包括レベル地域ケア会議	1
磯子区地域看護連絡会	1
中区レベル地域ケア会議及び高齢者虐待防止連絡会	1
横浜市産後母子ケア事業事業者連絡会	1
精神保健福祉士協会研修	1
中区障害者地域活動ホーム運営委員会	1
精神科病院事務長・医事担当者会議	1
認知症初期チーム検討委員会	1

2 研修・勉強会

内容	回数
ファーストレベル研修	28
神奈川県がん診療連携協議会相談支援部会及び研修会	3
神奈川県がん診療連携協議会相談支援部会広報WG	3
赤十字救護班主事基礎研修会	2
全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会 災害支援プロジェクト委員会	2
両立支援コーディネーター基礎研修	2
脳卒中相談窓口多職種講習会	1
主任看護師が取り組む問題解決	1
全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会総会及び研修会	1
入院時重症患者対応メディエーター養成講習会	1
がん相談支援センター基礎研修(3)	1
新任係長級職員研修会	1
全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会 初任者研修会	1
中堅職員研修会	1
ソーシャルワーク実習・実習指導者懇談会	1
病院とケアマネジャーの連携について	1
DMAT	1
がん相談支援センター基礎研修(1)(2)	1
日本赤十字社医学会総会	1
全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会 係長研修会	1
Patient Navigator 養成講座フオローアップ研修	1
関東ブロック研修会	1
入院時重症患者対応メディエーター実務者発表会	1
横浜市民病院 児童虐待対策研修	1
これからの入院支援を考える	1
高次脳機能障害支援者向け研修Ⅱ	1
全国赤十字医療ソーシャルワーカー協議会 全体研修会	2

③その他

内容	回数
患者自宅訪問	4
汐見台病院見学	2
ふれあい横浜ホスピタル見学	2
横浜市立大学附属病院見学	1
横浜市立脳卒中・神経脊髄センター見学	1
横浜市民病院見学	1
けいゆう病院見学	1
佐藤病院見学	2
亀田病院見学	1
横浜中央病院見学	1
就職セミナー	1

4－6 市民委員会

1 データ

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
開催日 (出席人数)	令和4年3月30日 (9人)	令和5年2月10日 (7人)	令和6年2月6日 (8人)

	委員氏名	役 職
1	河原 和夫	医療法人財団 利定会 大久野病院・介護医療院 理事・院長
2	秋山 修一	横浜市中区医師会 会長
3	三角 隆彦	社会福祉法人恩賜財団済生会横浜市東部病院 院長
4	荻野 安奈	作家 慶應義塾大学文学部名誉教授
5	茅本 隆司	日本発条株式会社 代表取締役社長
6	川本 守彦	川本工業株式会社 代表取締役社長
7	河村 朋子	磯子区医師会在宅部門統括責任者
8	松澤 秀夫	中区連合町内会長連絡協議会 会長
9	田島 真也	横浜みなと赤十字病院奉仕団 団員

2 成果

報告内容は以下のとおりである。

- ・令和6年能登半島地震に対する当院の医療救護活動について
- ・横浜市立みなと赤十字病院の現況
- ・医師の働き方改革～患者さんと医師の未来のために～
- ・当院の教育・研修への取り組みについて

当院の運営に対し有識者から意見をお聞きし、上記各報告についてだけではなく、その他当院の様々な問題点についてもお指摘をいただく場となっている。

3 課題

委員の方からご意見をいただいた場合に、担当部署が責任をもって改善に向けた行動に繋げることが必要である。

4-7 治験・受託研究

1 データ

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
治験実施件数	19件	22件	23件
自主臨床試験件数	155件	138件	155件
特定臨床研究	7件	7件	8件
製造販売後調査件数	53件	52件	44件

2 成果

(1) 治験

治験審査委員会は毎月1回開催し、開催回数は12回であった。昨年度までは新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためWeb会議システムにより開催していたが、今年度より通常通りの対面形式の開催とした。10月開催分からは、資料を電子化し、iPadを用いた電子データの閲覧により審査を行った。

令和5年度新規治験受託件数は5試験（医薬品5試験）であった。内訳は下記のとおりである。

- ① 中外製薬株式会社の依頼による第Ⅰ相/前期第Ⅱ相試験
- ② 早期アルツハイマー病被験者を対象に安全性、有効性、薬物動態及び薬力学を評価する無作為化、二重盲検、プラセボ対照試験（第Ⅰb/Ⅱ相試験）
- ③ 中等症から重症のアトピー性皮膚炎を有する成人患者を対象とした多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、並行群間比較、用量設定第2b相試験
- ④ 206713 試験又は 213744 試験の登録被験者を対象とした GSK3511294 の非盲検継続投与試験
- ⑤ サノフィ株式会社の依頼による中等症から重症の成人喘息患者を対象とした SAR443765 の 第Ⅱ相試験（第Ⅱ相試験）

(2) 自主臨床研究

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、侵襲および介入のない研究については文書審議（介入がなく軽微な侵襲があるものも含む）を実施した。また、多機関共同研究を当院が主体となり実施する際の必要書式の整備および審査体制の構築を行った。

研究の実施支援においては、治験コーディネーター（CRC）の支援をいくつかの多機関共同研究において実施した。支援業務としては同意説明補助、被験者の来院管理、試験窓口、データ入力、データ抽出、検体回収等であった。

(3) 特定臨床研究

研究分担施設として実施した研究は8試験であった。施設としての対応は、施設管理者への報告および承認取得の実施、書類の管理を実施した。

(4) 教育・研修

研修、臨床研究の申請方法および手順書等の案内は主に電子カルテ掲示板を通じて実施した。初回研修セミナーとして指定した2つのe-learningの新規受講者は計24名であった。継続研修セミナーとしては、下記の通り2回実施した。

	1回目	2回目
実施時期	令和5年10月27日	令和6年3月12日
テーマ	オートファジーを基軸とした細胞内分解の研究	医学系研究・遺伝子研究における個人情報保護の留意点
講師	東京大学 大学院医学系研究科 教授 水島 昇 先生	東京医科歯科大学病院 遺伝子診療科 同 生命倫理研究センター 講師 江花 有亮 先生
開催方法	会場とWeb併用のハイブリッド	会場とWeb併用のハイブリッド
単位認定	-	日本専門医機構の認定講習
参加者	76名（院内71名、院外5名）	74名（院内67名、院外7名）

3 課題

(1) 治験

- ・令和6年4月より新たな治験管理システムを導入したため、今後は治験の必須文書保管の電磁化に向けて手順書及び環境等の整備および見直しを進める。
- ・GCPの改訂に合わせて治験の標準業務手順書等の改訂を行う。

(2) 自主臨床研究

- ・「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の改正に伴い、手順書の見直しを図り、個人情報保護法に則った研究実施体制および審査体制の整備を行う。
- ・臨床研究の申請から審査までが円滑に行われるよう手順を整理し、令和6年度に実施するシステム導入が円滑に実施できるよう準備と院内への周知を実施する。
- ・がん拠点病院として、がん関連の治験の実施およびがん関連の臨床研究の実施支援を推進していけるよう院内への啓蒙活動および実施体制の整備を進めていく。

(3) 特定臨床研究

- ・整備途中である手順書及び様式を整え、体制を構築する。

4-8 患者・市民に対する相談・啓発活動

1 データ

<赤十字救急法等講習会開催実績>

(1) 赤十字救急法短期講習

令和3年度		令和4年度		令和5年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
4回	16人	8回	52人	4回	42人

(2) 赤十字救急法救急員養成講習

令和3年度		令和4年度		令和5年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
0回	0人	0回	0人	2回	67人

(3) 赤十字健康生活支援講習短期講習

令和3年度		令和4年度		令和5年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
1回	20人	1回	16人	3回	27人

(4) 赤十字健康生活支援員養成講習

令和3年度		令和4年度		令和5年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
0回	0人	0回	0人	1回	12人

(5) 水上安全法短期講習（市内小学校の着衣泳講習へ指導員職員を派遣）

令和3年度		令和4年度		令和5年度	
開催日	参加者	開催日	参加者	開催日	参加者
0回	0人	0回	0人	1回	2人

2 成果

市民サービスの一環として、市民の受講を受け入れる講習会を再開することができたほか、地域施設への安全思想の普及（水上安全法）を実施することができた。

3 課題

救急法短期講習会（BLS講習）や健康生活支援講習会は、当院を訪れた患者や来訪者の急変時の対応も含まれており、来訪された方々の健康や安全の確保、サービスの向上のために、引き続き講習会を開催し、より多くの職員の習得を目指す。また、横浜市立病院であり赤十字病院でもあるため講習会を通じて市民への健康・安全への意識向上をさらに取り組む。

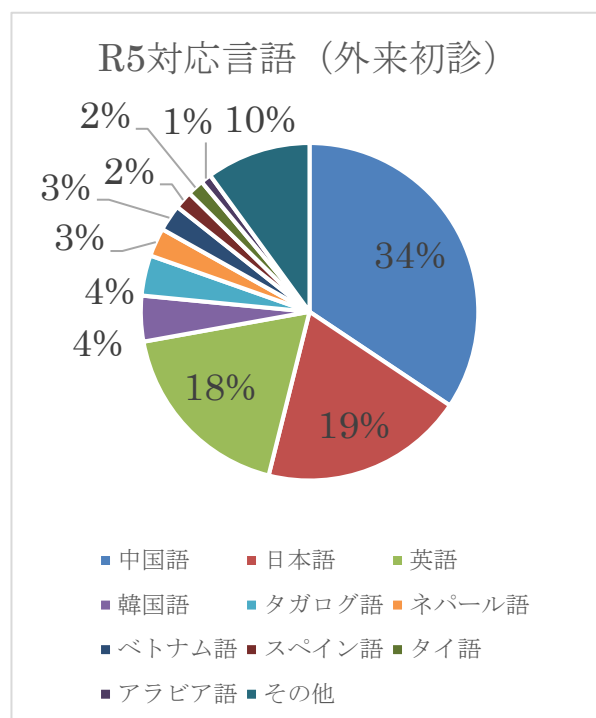
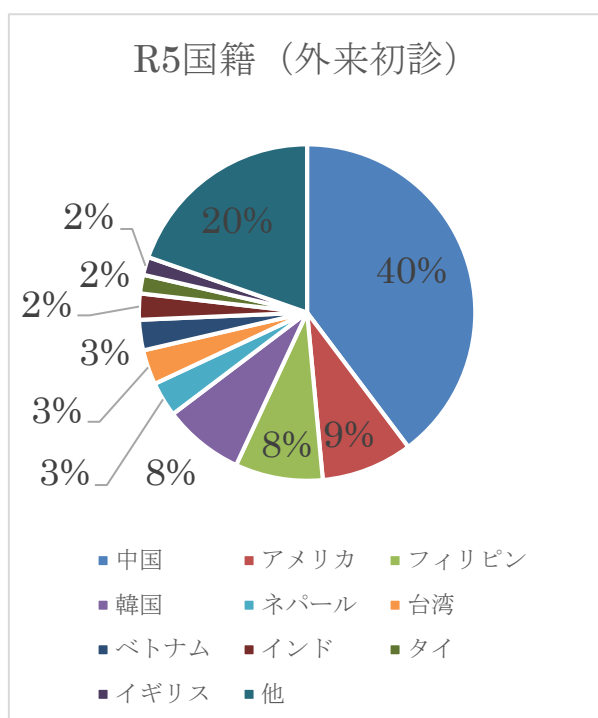
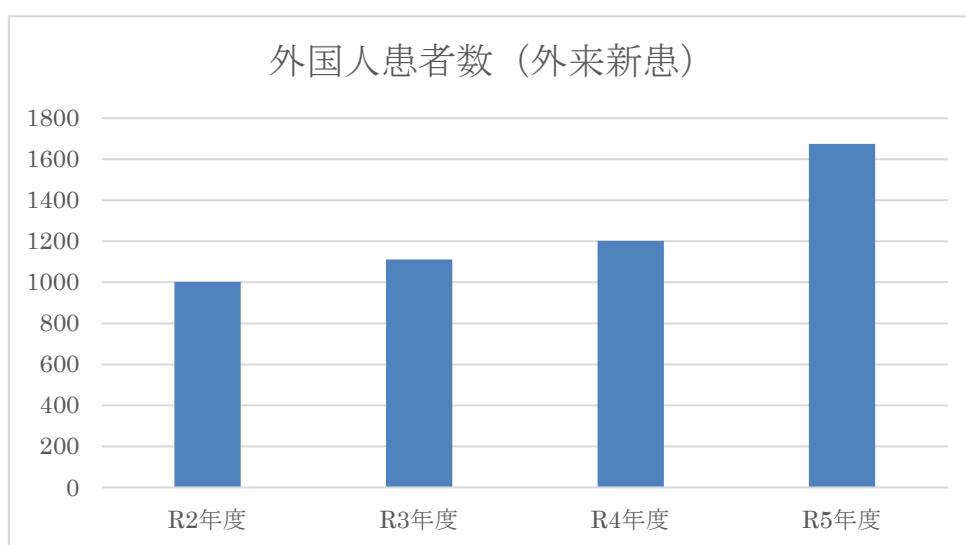
4-9 患者サービス

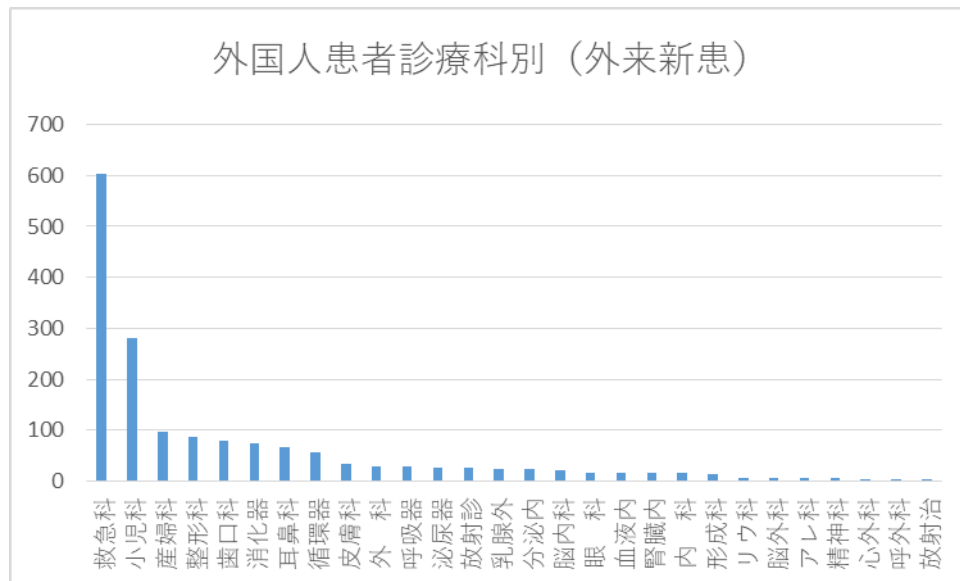
1 データ

(1) 患者満足度調査結果（令和5年度）

患者満足度調査を令和5年10～12月に実施した（別紙参照）。

(2) 外国人患者統計（令和5年度）





（３）外国人患者受入れ体制の整備活動

- ・外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）更新受審
- ・JMIP 統計情報の収集
- ・国際医療部運営委員会を年２回開催
- ・外国人患者対応マニュアル、通訳マニュアル、業務手順の見直し
- ・院内サイン、各種文書の多言語化対応（英語、中国語）
- ・デジタルサイネージのコンテンツの見直し
- ・通訳ツール（テレビ電話通訳、アプリ通訳）活用のため機器の研修会の実施
- ・医療通訳者の育成支援
- ・異文化理解のための講演会の開催
- ・近隣宿泊施設訪問による地域連携
- ・未収金対策検討、訪日外国人受診者医療費未払情報報告システムへの参加

（４）病院ボランティア活動

ア 総合案内

通年、病院内入口付近にて外来患者の案内や誘導、清掃を実施した。また病院周辺の庭木の手入れを定期的実施した。

災害時対応として病院総合防災訓練へ参加した。

イ 作業部会

- ・ガーデニング：第２・４水曜日
- ・パッチワーク：第１・３金曜日

２ 成果

（１）CS 委員会

CS 委員会では、「療養環境チーム」「調査改善チーム」「啓発教育チーム」の３チームを設置し、活動を行った結果、以下の成果を得た。

療養環境チームでは、新型コロナウイルス感染症によりトイレにてペーパータオルを配置していたが、厚生労働省の通達に基づきジェットタオルの使

用が認められることになったことから、ジェットタオルを配置した。これによりトイレの衛生面が改善した。また「みなさまの声・ご提案」に基づき2回のラウンドを実施した。

調査改善チームでは、「患者満足度調査」、「みなさまの声・ご提案」によって集積される患者のご意見を分析し、患者サービス向上への取組を行っている。令和5年度においては「みなさまの声・ご提案」に寄せられたご意見を意見に対する活用フローを基に改善計画を計画している。また前述の通りトイレに対する不満を解消した。

啓発教育チームでは、研修のあり方について精査し、次年度以降、eラーニングを活用した研修を計画している。

(2) 外国人患者対応

外国人患者対応については、収集した患者統計、アンケート、対応困難事例などを参考に、国際医療部運営委員会にて常時改善活動を行っている。6月にJMIP更新受審し9月に認証を取得した。増加傾向にある訪日外国人患者対応として、医療通訳ライセンスを増やし通訳体制を強化し、近隣宿泊施設を含む外部関係機関との連携を図った。

(3) 病院ボランティア活動

ボランティア活動では、横浜みなと赤十字病院奉仕団に所属する病院ボランティアが、訪れた患者がスムーズで安心して受診できるように、院内の案内や、敷地内のガーデニング、患者用パッチワークキルトひざ掛けの製作などの活動や提供を行った。

3 課題

療養環境チームでは、開院から19年経過し施設の老朽化が進んでいることに対し、建物・設備担当ワーキンググループへの提言、修繕予算及び決定機構を策定するといった改善プロセスを確立する。

調査改善チームでは、患者満足度調査の方法を改善するとともに、調査結果を受けての改善プロセスを確立する。

啓発教育チームでは、ホスピタリティを病院職員に根付かせることを目的に継続していく。

外国人患者対応としては、今後増加が見込まれる訪日外国人への対応の強化（救急外来での対応強化、未収金対策、現場で必要な書類の多言語化など）を更に推し進める。

外来患者満足度調査 結果報告

調査期間 令和5年10月23日(月)～令和5年10月27日(金) 有効回収枚数 662枚

① 回答者 内訳

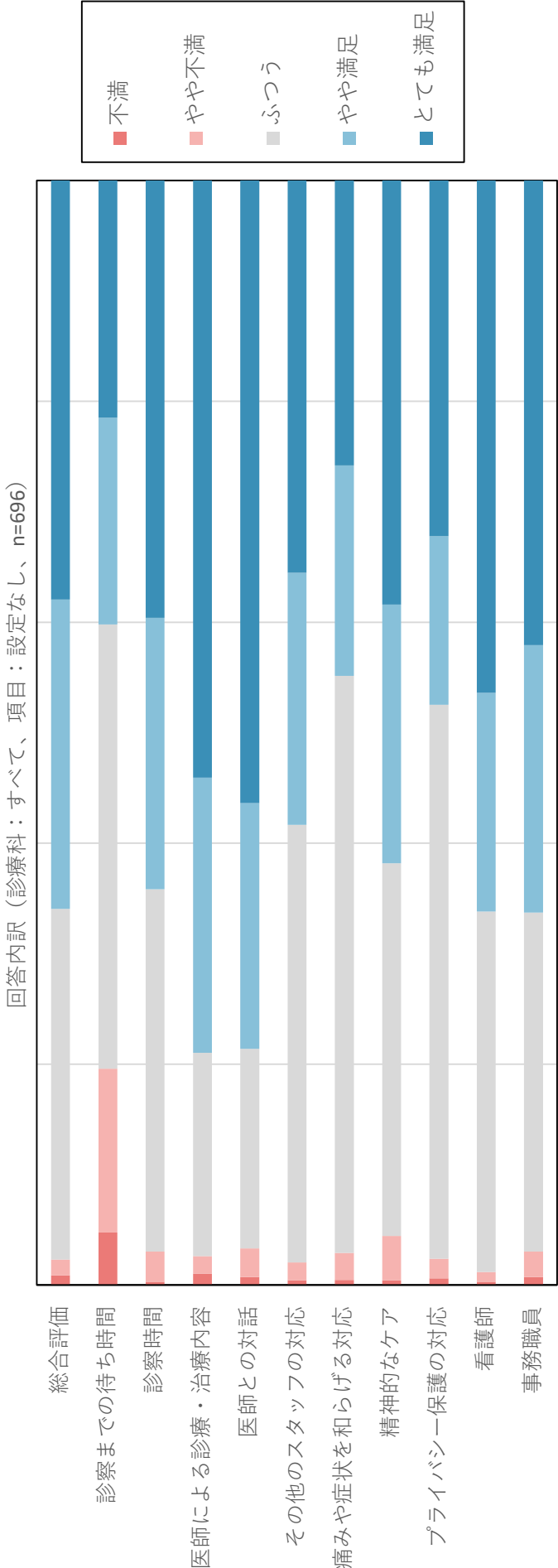
項目	人数
患者や利用者本人	443
患者や利用者の家族	64
患者や利用者の知人	1
その他の関係者	2
無回答	186

項目	人数
男性	204
女性	306
無回答	186

項目	人数
外科系	201
内科系	211
その他	98
無回答	186

項目	人数
10代	5
20代	29
30代	51
40代	62
50代	83
60代	99
70代	109
80代	63
90代以上	8
無回答	187

② 回答内容



入院患者満足度調査結果報告

調査期間 令和5年10月10日(火)～令和5年12月4日(月) 有効回収枚数 453枚

① 回答者 内訳

項目	人数
患者や利用者本人	496
患者や利用者の家族	38
患者や利用者の知人	1
その他の関係者	1
無回答	45

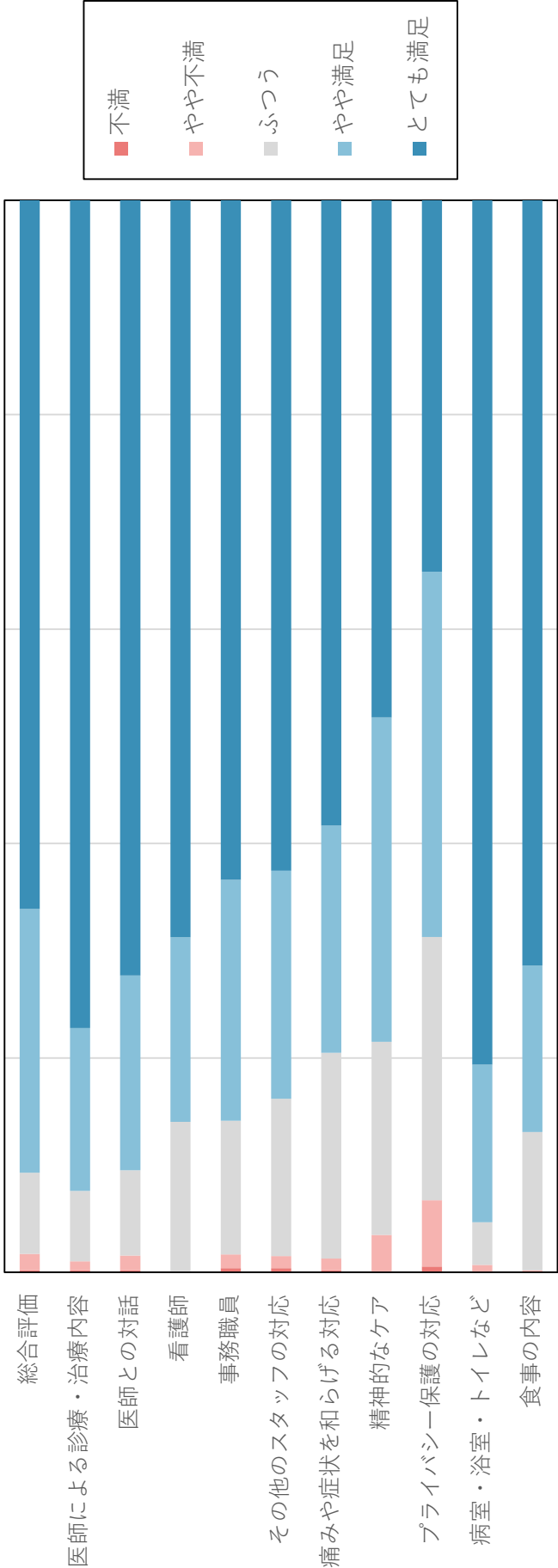
項目	人数
男性	286
女性	255
無回答	40

項目	人数
外科系	210
内科系	178
その他	139
無回答	54

項目	人数
0～9歳	24
10代	11
20代	25
30代	67
40代	46
50代	83
60代	87
70代	148
80代	54
90代以上	4
無回答	32

② 回答内容

回答内訳（診療科：すべて、項目：設定なし、n=581）



4-10 医療データベースの構築と情報提供

1 成果

(1) インターネット環境の整備

ポストコロナを見据えた受け入れ環境整備促進事業（災害・急病等危機管理対応事業）について

- (1) 観光施設等における衛生環境の強化
- (2) 災害時の観光施設等における避難所機能の強化
- (3) 災害時の観光施設等における多言語対応機能の強化
- (4) 訪日外国人患者受入機能強化
- (5) 災害時等における観光危機管理の強化

の事業に参画し院内のインターネット Wi-Fi 環境の整備を行った。

(2) PHR 構築のデータベース開発

アレルギー疾患患者へのデータベース構築として一部のアレルギーからデバイス管理できるように整備、開発を進めている。

2 課題

(1) 電子カルテシステムのリプレイス準備

AI を使用した問診票や職員の働き方改革への寄与、新機能に対応する WG の立ち上げなど電子カルテシステムのリプレイス計画を進める。

(2) 情報セキュリティ体制の強化

B C P（事業継続計画）や情報セキュリティ対策の強化の推進、医療情報の安全管理に関するガイドラインの準拠、職員対象の訓練や研修を計画する。

5 職員研修

5-1 職員研修（医師）

1 データ

（1）事業実績

研修会等名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
モーニングセミナー	年間43回	年間43回	年間43回
医学生向けプログラム 説明会	年間3回オンライン (155名参加)	年間3回オンライン (148名参加)	年間3回 うち1回はオンライン1回 (119名参加)
Morbidity and Mortality Conference	年間4回	年間2回	年間3回
講演会	年間2回	年間2回	年間3回
新規採用者 オリエンテーション	4月1日	4月1日	4月3日
新規採用医師 オリエンテーション	4月2日	4月4日	4月3日
新規採用研修医 オリエンテーション	4月5～9日 (5日間)	4月5～8日 (4日間)	4月4～10日 (5日間)
チーム医療 ワークショップ	4月28日	4月28日	4月28日
院内CVCライセンス 制度	認定試験2回 指導者試験0回	認定試験3回 指導者試験1回	認定試験3回 指導者試験0回
指導医養成講習会	11月27・28日 (2日間)	-	7月16・17日 (2日間)
JMECC	未開催	2月12日	2月4日

（2）採用人数

【初期研修】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
研修医	8 (8)	8 (8)	8 (8)	8 (8)
研修歯科医	1 (1)	1 (1)	2 (2)	2 (2)

※（ ）は定員数

【専門研修】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
整形外科専攻医	2 (2)	1 (2)	2 (2)	2 (2)
内科専攻医	5 (5)	5 (6)	1 (6)	3 (6)
外科専攻医	1 (2)	1 (2)	2 (2)	2 (2)
救急科専攻医	4 (6)	6 (6)	5 (6)	3 (6)
麻酔科専攻医	0 (2)	3 (3)	0 (4)	0 (4)
精神科専攻医	0 (3)	2 (2)	1 (2)	0 (1)

※（ ）は定員数

(3) 診療科見学者数 (延べ人数)

【医科】

(医学生) 見学者年間延べ人数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
140	169	216	241

(研修医) 見学者年間延べ人数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
14	17	27	35

【歯科】

(歯学生) 見学者年間延べ人数の推移

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
10	5	17	5

2 成果

医師及び歯科医師臨床研修では、医師8名、歯科医師2名が研修を修了した。令和2年度より新制度に移行した医師臨床研修制度では、PG-EPOCなどを使用して到達目標の達成状況の確認を行った。また、PG-EPOCや当院規定の書式により指導医および他職種が研修医に対する評価を実施し、その結果を研修医にフィードバックした。さらに、研修医による指導医評価を行いその結果を指導医にフィードバックした。

令和3年度研修開始研修医のうち2名が当院の専門研修プログラムで研修を開始した(救急科2名)。

専門研修では、内科2名、外科1名、救急科3名が研修を修了した。

初期臨床研修及び専門研修に関して令和5年度の採用活動は引き続きホームページを基本とし、医学生向けに当院独自にプログラム説明会を開催した。

3 課題

臨床研修では、令和4年度に受審した卒後臨床研修評価機構による第三者評価の結果を踏まえ必要な取り組みを行う。看護師以外の他職種からの研修医評価、多職種による指導医評価、臨床研修について地域からの声の受け入れなどを検討している。

専門研修では、管理委員会など年間計画立案、プログラム改訂、連携病院への連絡など定時作業の集約が望まれる。

5-2 職員研修（看護部）

1 データ

(1) ラダー認定者数・院外研修受講者数等

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実践者ラダーレベルⅠ認定	55人	70人	5人
レベルⅡ認定	43人	39人	44人
レベルⅢ認定	4人	3人	6人
レベルⅣ認定	0人	0人	0人
管理者ラダーレベルⅠ認定	0人	0人	5人
レベルⅡ認定	1人	0人	0人
レベルⅢ認定	0人	0人	0人
レベルⅣ認定	0人	0人	1人
ラダー研修	62回	59回	65回
役割研修	33回	33回	31回
新人技術研修	11日	11日	11日
院外研修(看護協会)	76人	69人	97人
看護管理者ファースト研修	4人	5人	3人
看護管理者セカンド研修	1人	0人	2人
看護管理者サード研修	0人	0人	2人
臨床指導者研修	7人	5人	6人
認定看護師研修	3人	1人	1人
学会発表・参加	48人	66人	72人
特定行為研修	2人	2人	5人

(2) 院内・院外特定行為研修実績

区分別科目名	令和2年度	令和3年度	令和5年度
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	2人	2人	5人
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	1人	2人	1人
循環動態に係る薬剤投与関連	0人	0人	1人
創部ドレーン管理関連	0人	0人	0人
精神および神経症状に係る薬剤投与関連	1人	0人	0人
呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	—	—	2人
動脈血液ガス分析関連	—	—	2人

(3) 院内ラダー・役割研修実績

研修名	研修名	回数	受講者数	研修名	研修名	回数	受講者数
実践者 レベルⅠ	フォローアップ	1	70	実践者 レベルⅢ	認知症ケア	4	21
	医療と診療情報	1			口腔ケア	4	8
	フィジカルアセスメント	1			退院支援	5	15
	多重課題	1		実践者	ストレスマネジメント	1	4

	災害救護	1		レベルⅣ	キャリアカウンセリング	2	4
実践者 レベルⅡ	フィジカルアセスメント	5	74	管理者 ラダー	新任係長研修	6	2
	赤十字と看護倫理	1	71		新任師長研修	6	1
	看護と診療報酬	1	65	役割研修	救護員のための赤十字看護師研修	4	65
	看護コミュニケーション	1	67		フォローアップ研修	5	12
	ナラティブ	2	63		こころのケア要員	1	13
実践者 レベルⅢ	実地指導者	5	39		静脈注射基礎Ⅰ	3	70
	リーダーシップとメンバーシップ	3	26		静脈注射基礎Ⅱ	1	73
	看護倫理Ⅲ	2	14		2022 年教育担当者	2	19
	看護研究	2	11		2023 年教育担当者	1	11
	マネジメント入門	3	13		褥瘡専任看護師研修	6	44
	フィジカルアセスメント	4	14		暴力対応研修	1	20
					看護補助者研修	9	61

2 成果・課題

(1) 看護職員のキャリア開発

院内研修はe-ラーニングと対面での講義、体験、発表等の形態で実施した。講義だけでなく体験を通して、またその学びを発表することで得られるものが多くあり、各研修目標の達成度は高い。今年度から勤務評定と目標管理が重なることや新人看護師のラダー評価会の負担感を軽減するために、評価会時期を変更した。そのため、ラダーレベルⅠ取得者の認定が極端に少ないが、次年度以降は例年と同様になる予定である。コロナ感染が緩和されたことで、院外研修や学会の参加が増えてきている。各自がキャリアを考える環境が整ってきたため、より質の高い教育の機会が提供できるよう企画していきたい。

(2) 特定行為看護師の育成

今年度は院内5名、院外3名の特定行為研修受講者を受け入れた。それぞれ進捗が異なり、また区分別実習も多岐にわたり調整が難しいことがあった。実習においては指導者を増員し、指導と評価に負担がないよう依頼した。指導者を増員したことで、受講生に丁寧な指導や評価があり充実した研修内容となった。研修修了者は3名となり、新たに3領域の特定行為が拡大した。

特定行為研修修了者による会議を2回実施し、お互いの知識や技術の確認、また研修受講者支援について検討することができた。10名の研修修了者がいる「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」については、手順書作成に難渋している。現在、当院の各診療科の特徴から特定行為看護師の活用範疇を模索しているところである。今後も検討していく。

(3) 看護管理者のキャリア開発

今年度は各看護管理者研修（ファースト・セカンド・サード）に複数名受講することができた。サードレベル2名は当院の経営課題に取り組み実践途中である。ファースト・セカンドレベル受講者も各部署の現状分析し課題に取り組

んでいる。このように看護部内外の課題に取り組むことにより、各看護管理者の学習意欲が高くなりつつある。ただ、管理者ラダーのレベルⅡ取得者がいなかったため、管理者研修受講後にラダー取得の準備ができるよう支援が必要である。当院の看護管理者がより質の高い看護管理実践能力を発揮できるよう、課題を見出し取り組みしていきたい。

(4) 役割研修による看護師育成

静脈注射研修は対象者が全員受講することができた。他のスキルアップとして褥瘡ケア、暴力対応等の研修も各部署1～2名受講することができた。救護関連の研修では、当院でも赤十字救急法、赤十字健康生活支援講習会を開催することができた。また、赤十字救急法では2名の指導者を育成することができ、さらに指導者増員にむけた推進をしていく。1月の能登半島地震により、当初予定されていた神奈川県支部との救護関係の研修が中止となり、受講者数が少ない研修もある。次年度はその受講者を優先する予定である。

(5) 看護補助者のキャリア開発

看護補助者のラダーを開始してから3年経過し、キャリアを認識する機会が得られている。ラダーレベルⅡ取得者までは増えてきている。今後はラダーレベルⅢ・Ⅳの指標の精度をあげ、評価会内容を検討し、実施できるよう推進する。

レベル分類	研修会名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
入職時	新卒看護師 新規採用者研修 既卒看護師 新規採用者研修						既卒入職者は入職初日に研修実施					
	【集合研修】 ・新卒看護師 集合技術研修 ・チームワークシヨップ ・フォローアップ研修 ・多重課題 ・赤十字活動	集合研修 4/4～4/25 チームワークシヨップ 4/26		フォローアップ研修 6/28 (1600～1700)			多重課題（各部署）8/1～10/31 赤十字活動 防災訓練(各部署) 9/1～11/30					
レベルⅠ	【ラダー研修】 ・グローバルヘルスⅠ ・看護倫理Ⅰ ・フィジカルアセスメントⅠ①②	グローバルヘルスⅠ 4/4 (8:40～10:10)	フィジカルアセスメントⅠ ①5/21 (9:00～12:00 or 13:30～16:30)		看護倫理Ⅰ 7/5 (1600～1700)	フィジカルアセスメントⅠ ②8/16 or 8/23 (15：30～17：00)						
	フィジカルアセスメントⅡ (全5回)		①呼吸器 5/10 or 5/22 (1600～17:00)		②循環器 7/17 or 7/31 (1600～17:00)	③脳神経 8/7 or 8/14 (1600～17:00)	④消化器 10/2 or 10/22 (1600～17:00)	⑤以下の日程のいずれか 11/20・11/22・12/4・12/10 (15:50～17:00)				
レベルⅡ	看護と診療報酬						9/11 or 9/20 16：00～17：00					
	看護とコミュニケーションⅡ			6/21 or 6/25 (1600～17:00)								
	専門領域研修		部署間研修又は看護協会等の院外研修（出張として認められたもの）									
	リーダーシップとメンバースhip (全4回)		①5/24 (16：00～17:00)		②7/26 (16：00～17:00)	③部署内活動と部署内発表（7/27～1/26）					④1/27 (16：0017:00)	
	後輩育成											3/7 16：00～17:00
	看護倫理Ⅲ (全3回)			①6/27 (17:00～18:30)		②各部署事例検討(30分) 6/28～11/18					③11/19 (17:00～18:30)	
	看護研究(入門) (全2回)		①5/20 (17:00～18:00)								②1/24 (17:00～18:30)	
	マネジメント入門 (全4回)			①6/10 (17:00～18:00)		②8/13 (17:00～18:00)	③管理体験(3時間) 8/15～11/30					④12/6 (17:00～18:00)
レベルⅢ	フィジカルアセスメントⅢ (全4回)			①6/4 (17:00～18:00)			②9/4 (17:00～18:00)	③10/4 (17:00～18:00)		④12/20 (17:00～18:00)		
	認知症ケア (全4回)			①6/12 (17:00～18:00)		②7/23 (17:00～18:00)	③9/25 (17:00～18:00)			④12/12 (17:00～18:00)		
	口腔ケア (全4回)		①5/21(水) (17:00～18:00)		②7/2 (17:00～18:00)		③9/9 (17:00～18:00)		④11/18 (17:00～18:00)			
	がん看護 (全4回)				①7/30 (17:00～18:00)	②8/19 (17:00～18:00)	③9/30 (17:00～18:00)				④1/28 (17:00～18:00)	
	入退院支援 (全5回)	①4月下旬～5/28 動画配信（1時間）	②5/29 (17:00～18:00)	④(3時間)6/1～9/30		③8/27 (17:00～18:00)				⑤12/18 (17:00～18:00)		
	実習指導		院外研修で読み替え									
レベルⅣ	キャリアカウンセリング		1年間通して①ナースिंगススキル動画講義視聴 ②自己キャリアを形成するための学会や研修会の参加									
	ストレスマネジメント (全3回)		①6/11 (17:00～18:00)	②7/22 (17:00～18:00)	③部署での実践 8～12月							
	家族関係の調整		日程が決まり次第公募（時期未定） 院外研修で読み替えも可									
	組織論とアサーティビネス		日程が決まり次第公募（時期未定） 院外研修で読み替えも可									
看護助手ラダー レベルⅠ												
①赤十字原則	看護助手ラダー レベルⅡ				①7/24 (15:00～16:00)		②9/18 (15:00～16:00)					
	看護助手ラダー レベルⅢ ①目標管理 ②同様支援					①8/28 (15:00～16:00)					②1/21 (15:00～16:00)	
看護助手ラダー レベルⅣ												
管理者ラダー レベルⅠ	新任係長研修 (全6回)		①5/8 (15:00～16:00)	②6/12 (15:00～16:00)	③7/10 (15:00～16:00)		④9/11 (15:00～16:00)	⑤10/9 (15:00～16:00)		⑥12/11 (15:00～16:00)		
管理者ラダー レベルⅡ	新任師長研修 (全5回)	①3月中 (10:00～15:00) ②4/18 (16:00～17:00)		③6/19 (16:00～17:00)				④10/16 (16:00～17:00)				⑤2/19 (16:00～17:00)

5-3 職員研修（薬剤部）

1 データ

（1）部内研修実績

- ・ Quality Indicator（Q I）とバランスト・スコアカード（B S C）から
個人目標へのつなげ方 1回
- ・ ランチタイムセミナー 16回
- ・ 文献検索、D I 情報共有 9回
- ・ 副作用報告・症例検討に関する勉強会 6回
- ・ がん化学療法に関する勉強会 4回
- ・ 緩和医療に関する勉強会 2回
- ・ 感染に関する勉強会 2回
- ・ 糖尿病腎臓関連勉強会 2回
- ・ ASTに関する勉強会 2回
- ・ FLSに関する勉強会 1回
- ・ 学会報告会・予演会 4回
- ・ 麻薬・向精神薬に関する勉強会 3回
- ・ 医療安全に関する勉強会 4回
- ・ NSTに関する勉強会 1回
- ・ せん妄に関する勉強会 1回
- ・ 災害救護に関する勉強会 1回
- ・ TDMに関する勉強会 1回
- ・ 褥瘡に関する勉強会 1回
- ・ 手術室業務に関する勉強会 1回

（2）学会発表

- ・ 第16回日本緩和医療薬学会 1演題
- ・ 第33回日本医療薬学会年会 3演題
- ・ 第20回かながわ薬剤師学術大会 1演題
- ・ 第97回日本感染症学会学術講演会/第71回日本化学療法学会総会 1演題
- ・ 第26回日本臨床救急医学会総会・学術集会 2演題
- ・ 第59回日本赤十字社医学会総会 1演題
- ・

（3）論文投稿

- ・ 日本中毒学会機関誌「中毒研究」 1報
- ・ Bulletin of the National Research Centre 1報

（4）学会シンポジウム

- ・ 日本病院薬剤師会関東ブロック 第53回学術大会 1演題
- ・ 第17回日本在宅薬学会学術大会 1演題

2 成果

- ・薬剤部内において部員会での研修プログラムを作成し、薬剤師研修委員会を中心に部員会をはじめとした研修の質の向上に努めている。
- ・日赤の新たな取り組みである勤務評定システムを活用し、目標達成の進捗を確認し目標の調整を行いながら進めてきた。
- ・令和5年度は、新たに部員の意見を聴取し、プログラムに反映させた形として取り組んできた。

3 課題

- ・薬剤師教育ラダーを活用しているが、日赤本部の教育ラダーや新しく始まった勤務評定についてもバランスよく活用しながら、引き続き検討していく必要がある。
- ・専門、認定薬剤師取得者を増やし薬物療法の質向上につなげるため、研修、学会への参加を引き続き積極的に進める。また、今後は他施設との情報交換も積極的に進め、専門、認定の必要性についてもさらに理解を深める必要がある。
- ・設定した個人目標を達成できるようにサポート体制についても充実させていく必要がある。

5-4 職員研修（医療技術部門）

1 データ

研修会名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
新規採用者オリエンテーション	4月開催	4月開催	4月開催
インシデント報告ツール説明会	4月開催	4月開催	4月開催
チーム医療ワークショップ	年間2回開催	年間2回開催	年間2回開催
研修会参加数（5部門）	年間60回	年間170回	年間150回

2 成果

医療技術部門は放射線科部、検査部、栄養課、リハビリテーション科部、臨床工学課の5部門で構成されている。本年度の医療技術部門の研修会参加数は150件であった。院内での研修会や院外で開催する研修会、学会などに積極的に参加した。本年度は対面式で参加することが多く、技術会も多く開催されスキルアップに努めることができた。また、専門の資格取得も増やすことができ更には学会発表や論文投稿なども多数行うことができた。

3 課題

医療技術部門全体での研修は各分野の専門性が強いいため、医療技術部門共通の研修会を開くことは難しい。共通となる医療安全や感染対策の院内研修会には参加の呼びかけを行った。引き続き各部門内で、研修参加をサポートするとともに、昨年度同様にそれぞれの専門資格取得や学会発表も推進し質の向上に勤めていく。

5-5 職員研修（事務部）

1 データ

	令和4年度	令和5年度
レベル1 (入社1年目)	対象者：7人 総合案内研修、メンタルヘルス研修、コミュニケーションスキル研修など10回	対象者：4人 事務系部門理解、メンタルヘルス、文書、コミュニケーションスキル、当直研修など12回
レベル2 (入社2年目)	対象者：2人 医療保険制度、会計の基礎、メンタルヘルス研修、目標管理など7回	対象者：5人 メンタルヘルス、診療報酬、災害救護、会計の基礎、物流管理、目標管理など7回
レベル3 (入社3年目以降の主事)	対象者：52人 業務改善、コンプライアンス、後輩指導、PCスキル、災害対応研修、メンタルヘルス研修など12回	対象者：48人 コミュニケーションスキル、データ分析、PDCAサイクルの3グループに分かれて研修、発表
レベル4 (係長クラス)	対象者：17人 Eラーニング（チームマネジメント、問題解決）、メンタルヘルス研修の3回	対象者：17人 課題解決型チーム研修1回、発表1回
レベル5 (課長クラス)	対象者：17人 メンタルヘルス研修、経営マネジメント研修の2回	対象者：16人 組織横断的な課題解決研修、事務部目標に対する取り組み発表など3回

2 成果

令和5年度は、変わりゆく時代の流れに積極的に対応できる人材を育成するため、「新しいことへのアプローチを促し積極的なチャレンジを動機づけること」を目標とした。レベル1、2では、事務職員としての基礎能力の向上や職場定着に必要な横の繋がりを強化した。レベル3以上は、職能・職務ごとに求められる病院運営の課題について他部署職員と協同して解決に向けたワークに取り組んだ。実際に取り組まれた活動を通して新たな診療報酬の獲得などできており、事務職員が積極的に経営に参画し能動的に行動できる能力を向上させた。

3 課題

各レベルで行う研修内容は、基本的に前年度を踏襲するため形式的になりがちである。事務研修委員会としての目標を毎年度掲げ、その目標の達成するための研修を加えることでマンネリ化を防いでいく。

事務研修の負担が大きく、通常業務に支障をきたしているとの意見があったことから、過度な研修を控え、適度なバランスをもった計画を立てることが必要である。

6 院外からの研修受入れ

6-1 院外からの研修受入れ（医師）

1 データ

クリニカルクラークシップ受入れ数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
受入れ総数	2名	7名	13名

2 成果

近年、医学教育の国際基準に適合するため大学の臨床実習期間が延長され、大学病院以外の病院でもクリニカルクラークシップが行われるようになっている。新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れ要請が減っていたが、増加の傾向にある。

令和5年度は7大学（順天堂大学3名、杏林大学3名、東京医科歯科大学2名、横浜市立大学2名、筑波大学1名、昭和大学1名、東邦大学1名）から13名の学生を受け入れた。診療科別の受入実績は、救急科6名、外科2名、整形外科2名、産婦人科1名、循環器内科1名、救急外科1名である。

3 課題

コロナ後となり、各大学からのクリニカルクラークシップ受け入れ要請の増加が見込まれる。受け入れ要請があれば可能な限り学生を受け入れていきたい。

6-2 院外からの研修受入れ（看護部）

1 データ

(1) 研修受入れ数（添付資料参照）

ア 看護基礎教育実習

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
受入れ総数	263名	339名	347名

イ 卒後教育実習

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
受入れ総数	11名	11名	11名

(2) 実習指導者研修

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
実習指導者研修修了者数※	40名	42名	44名

※看護師長、日本赤十字看護大学実習指導者研修は含まない。

2 成果と課題

(1) 基礎教育実習と卒後教育実習の受入れ

ア 基礎教育実習は大学2校（日本赤十字看護大学、創価大学）と看護専門学校3校（神奈川県立よこはま看護専門学校、神奈川県立衛生看護専門学校、横浜市病院協会看護専門学校）を受け入れた。新型コロナウイルス感染の院内対応に準じて、感染対策を実施した。実習初日のオリエンテーション内容と運用を見直した。次年度に評価していく予定である。

イ 卒後教育では、各大学院、教育機関から11名の実習生を受け入れた。十分な感染対策の元、全日程実習を実施することができた。実習生と関わることで各部署の看護や看護管理を振り返る機会を得ることができた。今後も積極的に実習生を受け入れていきたい。

(2) 実習指導者の育成

令和5年度は、実習指導者講習会（長期）に6名派遣した。今後も長期実習指導者研修生が増員できるよう計画的な育成を目指す。日本赤十字看護大学フロンティアセンターの実習指導者研修は9名が受講できた。今後も教育の質向上を目指し育成を継続する。

(3) 実習環境の整備

休憩室は、換気や除菌用アルコールタオルの常備等を継続し、感染予防対策に努めた。また、インターネット検索や資料作成が可能なパソコンとプリンターを各1台設置した。

6－3 院外からの研修受入れ（薬剤部）

1 データ

研修名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
薬科大実務実習	17名	15名	14名	15名
学生版薬薬連携実習	16名	10名	7名	7名
アドバンスト研修	0名	0名	1名	1名

2 成果

薬科大学実務実習では、新しいコアカリキュラムのプログラムに沿って臨床現場に重点を置き実習を行ってきた。学生1名に対し実務実習指導薬剤師を2名配置し、臨床に則した形がとれるようになってきた。

実務実習を受け入れている大学と連携し、実習期間終了後からのアドバンスト研修を実施し令和5年度は1名受け入れてきた。

また、早期から薬薬連携を意識することを目的とし、中区薬剤師会会員薬局にて実習中の学生とともに薬薬連携実習を実施した。

その他、神奈川県病院薬剤師会実務者研修会の研修を2名受け入れている。

3 課題

令和元年度から実務実習では、新しいコアカリキュラムでの実習が展開されており、対応できる形をめざしてきた。

今後は、さらに内容を充実させ、実習の場でしか得られないものを提供できるよう、指導薬剤師の質を向上させながら取り組んでいきたい。

6-4 院外からの研修受け入れ（リハビリテーション科部）

1 データ

リハビリテーション実習生受け入れ状況

令和3年度：	理学療法臨床実習生	2名		
	作業療法臨床実習生	1名	作業療法評価実習生	1名
令和4年度：	理学療法臨床実習生	2名	理学療法評価実習生	1名
	作業療法臨床実習生	2名		
令和5年度：	理学療法臨床実習生	2名	理学療法評価実習生	2名
	作業療法臨床実習生	2名	作業療法評価実習生	1名
	作業療法見学実習生	6名		

2 成果

令和5年度は、新型コロナウイルス感染は続いていたが、感染症法の5類になったこともあり、予定した理学療法及び作業療法実習は受け入れることができ、新たに見学実習も受け入れた。

感染対策には引き続き十分な注意を払いながらも、急性期病院におけるリハビリテーション評価や治療については、実習期間を通して学ぶ機会を提供出来た。

3 課題

実習生を受け入れる上で問題になるのが、実習担当スタッフの時間的、精神的負担である。感染対策へ気を配る必要もあり、働き方改革を実践する中でスタッフの負担と実習生への負荷量に配慮する必要がある。

後輩たちをいかに優秀な人材に育てるのかという使命は十分に理解しているものの、実習生とスタッフとのコミュニケーションや関係構築には難しい面もあった。

厚生労働省から公布された理学療法士作業療法士養成施設指定規則の改正に対応するべく、臨床実習指導者研修会へは継続的に参加している。

6-5 院外からの研修受入れ（救命救急センター）

1 データ

救急救命士・救急士の実習生受入数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
横浜市消防局	4人	6人	6名
海上保安本部	13人	9人	12名
陸上自衛隊	31人	31人	31人

2 成果

病院前救護に必要な医学的知識・技能及び救急・救助活動における総合的な対応能力の維持・向上を目的とし、救命救急士・救急員の実習生受入を行っている。また、厚生労働省が実施する救命救急センター充実段階評価で、「救急救命士の気管挿管または薬剤投与実習の受入れ」が評価項目に入っており、病院としても積極的に実習生受入れを行っている。

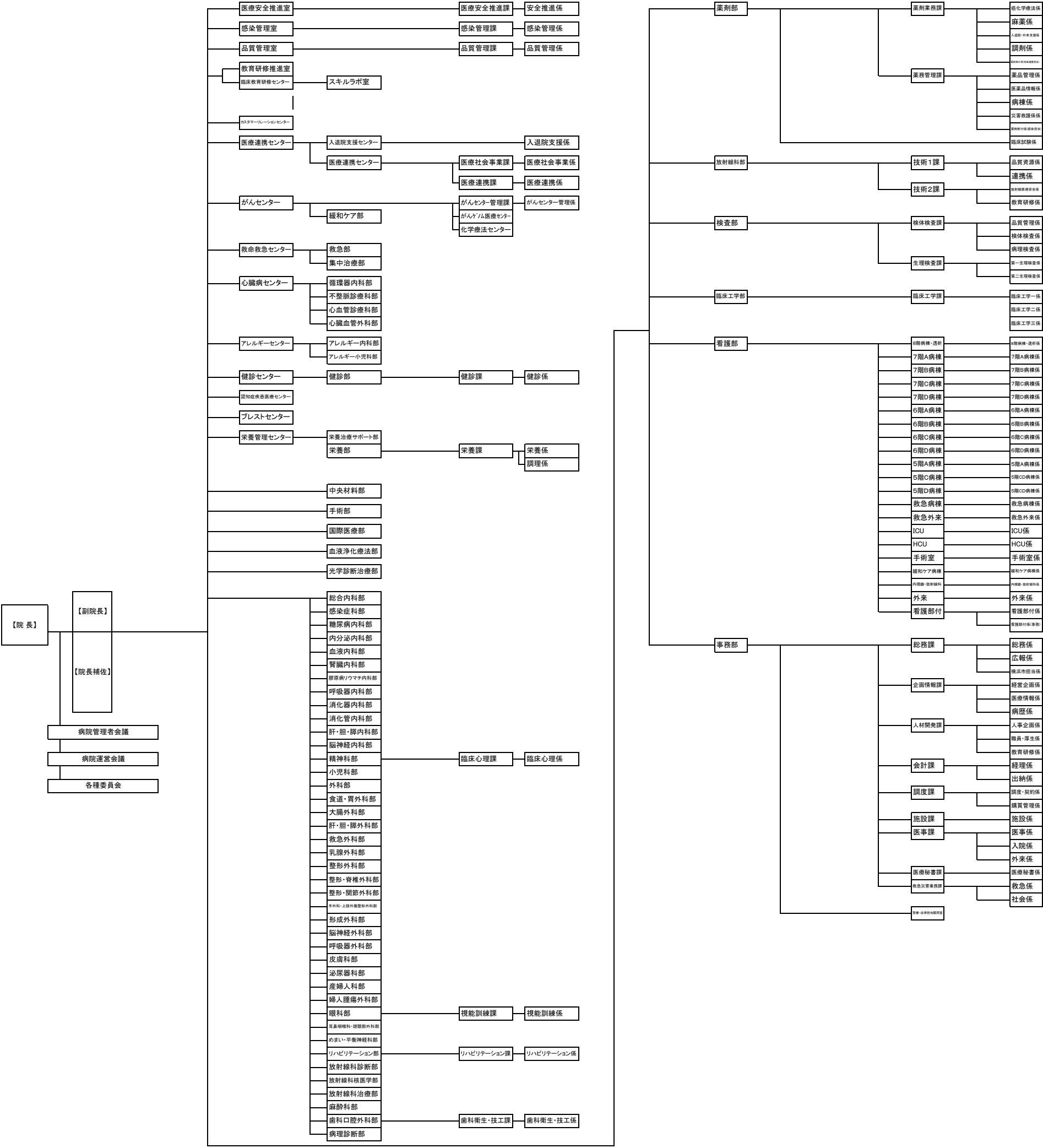
令和5年度は横浜市消防局、海上保安庁、陸上自衛隊から合計49名を受け入れ、救急救命士の教育ガイドラインや院実習実施要領等に基づき、当院の救命救急センターにおいて見学や実習を行った。

3 課題

当院は救急患者数が多く、横浜市消防局をはじめとした関係機関との連携が不可欠である。救急救命士の能力向上が市民の救命につながるため、今後も可能な限り実習生の受入を行っていききたい。

7 職員

横浜市立みなと赤十字病院 組織図 2023(令和5)年4月1日



7-2 職員配置状況

令和6年3月31日現在

職 種		配置 人員数	内 訳			備 考
			常勤	非常勤	派遣職員等	
管 理 部 門	事 務 職 員	213.0	109.0	12.0	92.0	常勤に看護師4名、横浜市職員2名含む
	技 術 職 員	1.0	1.0	0.0	0.0	
	運 転 手	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ボ イ ラ ー 技 師	0.0	0.0	0.0	0.0	
	電 話 交 換 手	2.0	0.0	0.0	2.0	
診 療 部 門	医 師	315.0	218.0	97.0	0.0	
	歯 科 医 師	6.0	5.0	1.0	0.0	
看 護 部 門	看 護 師	615.0	602.0	13.0	0.0	
	准 看 護 師	0.0	0.0	0.0	0.0	
	看 護 助 手	63.0	46.0	11.0	6.0	
	事 務 職 員	22.0	2.0	0.0	20.0	
健 診 部 門	看 護 師	3.0	3.0	0.0	0.0	
	事 務 職 員	14.0	3.0	0.0	11.0	
連 携 部 門	社 会 福 祉 士	8.0	8.0	0.0	0.0	
	精神保健福祉士	2.0	2.0	0.0	0.0	
	看 護 師	10.0	10.0	0.0	0.0	
	事 務 職 員	13.0	5.0	0.0	8.0	
検 査 ・ 医 療 技 術 部 門	薬 剤 師	42.0	38.0	1.0	3.0	
	診療放射線技師	36.0	36.0	0.0	0.0	
	臨 床 検 査 技 師	51.0	47.0	4.0	0.0	常勤に衛生検査技師1含む
	理 学 療 法 士	20.0	20.0	0.0	0.0	
	作 業 療 法 士	8.0	8.0	0.0	0.0	
	言 語 聴 覚 士	5.0	4.0	1.0	0.0	
	マ ッ サ ー ジ 師	0.0	0.0	0.0	0.0	
	臨 床 工 学 技 士	14.0	14.0	0.0	0.0	
	視 能 訓 練 士	2.0	2.0	0.0	0.0	
	歯 科 衛 生 士	4.0	4.0	0.0	0.0	
	臨 床 心 理 士	3.0	3.0	0.0	0.0	
	管 理 栄 養 士	10.0	10.0	0.0	0.0	
	栄 養 士	0.0	0.0	0.0	0.0	
	調 理 師	5.0	5.0	0.0	0.0	
	事 務 職 員	11.0	1.0	0.0	10.0	薬剤部、放射線科部
	その他	6.0	1.0	1.0	4.0	放射線科技術員 アレルギーセンター事務 プレストセンター事務
	合 計	1504.0	1207.0	141.0	156.0	

8 施設管理

8-1 医療機器の整備状況

購入単価500万円以上のもの

	部門名	機器名称	用 途	新規・更新
1	診療部門	眼底カメラ付き光干渉断層計	診断用	更新
2	中央部門	放射線治療システム	治療用	更新
3	中央部門	放射線治療計画用CT装置	治療用	更新
4	中央部門	密閉式自動固定包埋装置	診断用	更新
5	中央部門	X線テレビシステム	診断用	更新
6	中央部門	手術台	手術用	新規
7	中央部門	内視鏡手術支援ロボット	手術用	更新
8	中央部門	無影灯	手術用	更新
9	中央部門	汎用超音波診断装置	診断用	更新
10	診療部門	血行動態モニタ	治療用	更新
11	診療部門	大動脈バルーンポンプ	治療用	更新
12	中央部門	高周波手術装置	手術用	更新
13	中央部門	診断用X線装置	診断用	更新
14	中央部門	映像システム	手術用	新規

8－2 施設設備改修報告

(令和5年度)

	部門名	施設・設備名称	面積(㎡)	用途	新規・修繕
1	病院棟	吸収式冷凍機RA-1、2、3号機 蒸気及び電気系統整備更新	－	院内の冷房に関する空調設備が老朽化 したため更新した。	修繕
2	エネルギーセンター棟	特高受変電設備C-GIS用品2系 整備更新	－	電力会社からの特別高圧を受電する設 備が老朽化したため更新した。	修繕
3	エネルギーセンター棟	特高受変電設備複合型継電器 MCR1系整備更新	－	電力会社からの特別高圧を受電する設 備が老朽化したため更新した。	修繕
4	病院棟	非常照明用蓄電池バッテリー 交換整備更新	－	停電等の非常時に点灯する非常照明の 蓄電池バッテリーが老朽化したため更 新した。	修繕
5	病院棟	UPS無停電電源装置更新	－	商用電源停電時でも電源コンセントに 電力を供給する無停電現装置が老朽化 したため更新した。	修繕
6	病院棟及び エネルギーセンター棟	消防設備更新（第2期工事）	－	火災報知設備が老朽化したため更新し た。（第1期工事は令和4年度に実施済 み）	修繕

8-3 施設設備管理報告 法定及び自主点検業務

法定点検業務等	点検種別	周期	実施回数	令和5年度												関連法規及び保守管理基準
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
特定建築物	定期検査	1回/1～3年	1回/年						●							建築基準法
昇降機設備	定期検査	1回/年	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	建築基準法
自家用発電設備（コジェネ発電）	定期検査	1回/年	2回/年		●	●					●	●				電気事業法・消防法
ボイラー	性能検査	1回/年	1回/年				●									労働安全衛生法
第1種圧力容器	性能検査	1回/年	1回/年				●									労働安全衛生法
コンドラ（H29.12.5～休止中）	性能検査	1回/年	停止中													労働安全衛生法
第2種圧力容器	自主検査	1回/年	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	労働安全衛生法
小型ボイラ設備	自主検査	1回/月	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	労働安全衛生法
簡易専用水道	定期検査	1回/年	1回/年								●					水道法
ガスタービン（ガス圧縮機）	定期検査	1回/3年	今年度該当なし													電気事業法※R3年実施次回R6年
消防設備	定期検査	2回/年	2回/年					●						●	●	消防法
地下タンク貯蔵所	定期検査	1回/3年	今年度該当なし													消防法 ※R3年実施次回R6年
避難はしご設備	自主点検	2回/年	2回/年					●						●		消防法
医療ガス設備	定期点検	4回/年	4回/年		●				●		●			●	●	高圧ガス保安法
特定施設（水質測定）	定期点検	1回/月	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	下水道法
ばい煙測定	定期検査	2回/年	2回/年		●	●						●				大気汚染防止法
特高受変電設備定期検査	定期検査	1回/年	1回/年								●					電気事業法
高圧受変電設備定期検査	定期検査	1回/年	1回/年								●					電気事業法
無停電電源設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年	1回/年									●				電気事業法
（非常用照明）	定期検査	（1回/年）	1回/年									●				電気事業法
直流電源設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年	1回/年									●				電気事業法※更新次年度のため簡易点検
電力中央監視設備保守及び定期点検	定期検査	1回/年	1回/年													建築基準法
建築設備定期検査	定期検査	1回/年	1回/年							●						水道法
受水槽・高架水槽定期清掃	定期検査	1回/年	1回/年						●							水道法
飲料水水質検査	定期検査	2回/年	2回/年						●						●	水道法
害虫定期駆除	定期検査	1回/月	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	ビル管理法

機能維持に関する保守管理等	管理種別	周期	実施回数	令和5年度												関連法規及び保守管理基準
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
放送呼出装置	自主点検	2回/年	2回/年					●						●		消防法
ナースコール・インターホン設備	自主点検	2回/年	2回/年				●						●			メーカー標準点検
昇降機設備	自主点検	1回/月	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	建築基準法
冷凍機設備	自主点検	3回/年	3回/年	●				●							●	メーカー標準点検
冷却塔設備	自主点検	2回/年	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自主点検
空調調和設備	機能点検	2回/年	4回/年		●			●			●			●		自主点検
空調自動制御設備	自主点検	1回/年	3回/年		●					●			●			メーカー標準点検
チラー点検	定期点検	1回/年	2回/年				●				●					フロン排出抑制法
各種水槽設備	清掃	1回/年	1回/年		●			●			●					横浜条例
検査系排水処理設備	定期点検	1回/月	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーカー標準点検
R11排水処理設備	自主点検	1回/年													●	放射線障害防止法
自動ドア設備	自主点検	2回/年	2回/年				●						●			メーカー標準点検
駐車場管理設備	自主点検	2回/年	2回/年				●						●			メーカー標準点検
搬送設備	自主点検	2回/月	24回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	メーカー標準点検
冷却塔補給水薬注装置	自主点検	1回/月	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	自主点検
厨房グリスフィルタ定期清掃業務	清掃	4回/年	4回/年			●			●			●			●	自主管理
厨房グリストラップ定期清掃業務	清掃	6回/年	8回/年	●	●		●		●	●	●		●		●	ビル管理法

その他の保守管理業務	管理種別	実施回数	実施回数	令和5年度												関連法規及び保守管理基準
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
空調機等フィルター交換（洗浄）	洗浄	1回/月	12回/年	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	汚れが認められたら交換
窓清掃	清掃	2回/年					●				●				●	汚れにより適宜行う
エチレンオキシド環境測定	定期点検	2回/年	2回/年			●						●				労働安全衛生法
ホルムアルデヒド作業環境測定	定期点検	2回/年	2回/年			●						●				労働安全衛生法

8-4 外部委託（令和5年度）

	委託業務の名称	主な業務内容	受託者（会社名）	主管部署
1	食事療養提供業務	患者用給食の調理、給食材料管理補助、食器洗浄等衛生管理補助、配膳・下膳業務	富士産業株式会社	栄養課
2	中央材料室洗浄・滅菌業務、手術室サポート業務、内視鏡室洗浄・消毒業務	使用済器材の回収・洗浄・滅菌・供給業務、手術室術間清掃業務	日本ステリ株式会社	調度課
3	検体検査業務	検体検査業務	株式会社ビー・エム・エル	検査部
4	検体検査業務	検体検査業務	株式会社エスアールエル	検査部
5	検体検査業務	検体検査業務	株式会社L S I メディエンス	検査部
6	患者用ベッド洗浄業務	ベッド等の清拭・定期点検業務	株式会社柴橋商会	調度課
7	寝具賃貸借及び洗濯業務	患者用寝具・職員当直用寝具賃貸借業務、洗濯全般業務	株式会社サンビームランドリー	調度課
8	白衣等リース業務	看護師、看護助手の白衣及びタオルのリース	株式会社柴橋商会	調度課
9	白衣等リース業務	医師、メディカルスタッフの白衣のリース	株式会社サンビームランドリー	調度課
10	S P D 物流管理サービス業務	医療材料の物流管理業務	株式会社ホスピタルパートナーズ	調度課
11	医薬品院内物流管理業務	購買管理補助業務、薬品在庫管理業務、配置定数薬の補充管理業務、搬送業務 等	東邦薬品株式会社	薬剤部
12	手術室コンサルティング業務	オペキットの供給、手術室の効率運営システム	株式会社ホギメディカル	調度課
13	心カテ室等における立会い業務	PM・ICD・CRT-D・CRT-P植込み、フォローアップ等	株式会社A P E X	調度課
14	医事関連業務	外来部門の計算・受付・クラーク業務及び保険請求関連業務、コールセンター業務	株式会社ソラスト	医事課
15	企画情報課（医療情報システム）関連業務	職員からの問合せ対応、マスタメンテナンス、操作訓練等	株式会社ソラスト	医療情報課
16	2階各科（センター）・健診センター関連業務、病棟クラーク関連業務	2階各科クラーク業務、健診センター業務、病棟クラーク業務	株式会社日本教育クリエイト	健診課、看護部、医事課
17	治験事務関連業務	治験事務局支援業務及び治験審査委員会事務局支援業務	ノイエス株式会社	薬剤部
18	院内保育所運営業務	職員子女の保育業務	株式会社ポピンズ	総務課
19	施設管理	施設設備の運転及び点検業務	T M E S 株式会社	施設課
20	警備業務	院内外の警備業務	株式会社K S P	施設課
21	清掃業務	外回り外来部門・病棟・手術室・事務室等院内清掃業務	株式会社丸誠サービス	施設課
22	産業廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社神奈川保健事業社	施設課
23	一般廃棄物処理業務	院内から出されるゴミの収集運搬及び処理業務	株式会社神奈川保健事業社	施設課
24	感染性廃棄物収集運搬処理業務	院内から出される感染性廃棄物の収集運搬及び処理業務	株式会社トキワ薬品化工	施設課
25	医薬品（医療ガス）供給業務	医療用液体酸素・医療用液体窒素・医療用酸素ガス等の供給業務	株式会社イワサワ	施設課
26	統計解析業務	A R M S 及び喘息日誌症例データ解析	小松研究事務所	アレルギーセンター
27	データ保管業務	診療録保管業務	株式会社寿製作所	病歴管理課
28	緑地維持管理業務	院内緑地の剪定・除草・芝生刈り業務	株式会社愛花園	施設課
29	被ばく線量測定業務	ルクセルバッジ・リングバッジ測定	長瀬ランダウア株式会社	放射線科
30	医療廃棄物処理業務	医療廃棄物処理業務	横浜綿布工業株式会社	施設課
31	病棟病室床頭台・ランドリー管理業務	病棟病室床頭台（T V ・冷蔵庫）・コインランドリー保守管理業務	株式会社パースジャパン	施設課

※派遣・保守に関する業務、倉庫借用に伴う業務を除く

9 經營報告

令和5年度診療科別患者数等管理数値

外来診療収入										入院診療収入										入外合計額				手術									
診療科	診療収入					収入単価					診療収入					診療収入(室料差額除)					収入単価					当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率
	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率	当年度	前年度	増減	増減率													
総合内科	18,644	13,229	5,415	40.9%	21,283	12,352	8,931	72.3%	38,274	39,514	-1,240	-3.1%	36,957	38,290	-1,334	-3.5%	90,580	95,726	-5,146	-5.4%	56,918	52,743	4,175	7.9%	0	0	0	0	0	0			
糖尿病内分泌内科	213,575	215,599	-2,025	-0.9%	17,445	17,274	170	1.0%	410,758	376,034	34,724	9.2%	395,667	363,577	32,091	8.8%	52,996	51,851	1,145	2.2%	624,333	591,633	32,699	5.5%	0	0	0	0	0	0			
血液内科	261,754	244,435	17,318	7.1%	41,443	44,178	-2,735	-6.2%	772,187	675,184	97,004	14.4%	756,657	660,524	96,133	14.6%	89,228	85,916	3,312	3.9%	1,033,941	919,619	114,322	12.4%	0	0	0	0	0	0			
腎臓内科	145,059	159,953	-14,894	-9.3%	20,705	22,798	-2,093	-9.2%	295,273	409,604	-114,331	-27.9%	285,151	393,733	-108,582	-27.6%	59,271	62,507	-3,237	-5.2%	440,332	569,557	-129,225	-22.7%	105	98	0	0	0	0			
膠原病リウマチ科	334,831	299,581	35,250	11.8%	33,463	30,917	2,547	8.2%	183,005	168,376	14,629	8.7%	171,429	161,629	9,800	6.1%	49,064	55,696	-6,632	-11.9%	517,836	467,957	49,879	10.7%	0	0	0	0	0	0			
緩和ケア内科	302	252	50	19.8%	2,744	2,708	36	1.3%	1,194	1,199	-5	-0.4%	1,194	1,147	48	4.2%	42,665	38,219	4,436	11.6%	1,496	1,451	45	3.1%	0	0	0	0	0	0			
呼吸器内科	358,578	343,050	15,529	4.5%	26,609	26,857	-249	-0.9%	1,128,327	1,189,009	-60,682	-5.1%	1,058,986	1,128,235	-69,249	-6.1%	60,462	66,894	-6,432	-9.6%	1,486,906	1,532,059	-45,153	-2.9%	1	0	0	0	0	0			
消化器内科	556,939	484,669	72,269	14.9%	20,663	18,222	2,441	13.4%	1,436,638	1,434,977	1,661	0.1%	1,375,093	1,359,813	15,281	1.1%	67,337	64,673	2,664	4.1%	1,993,577	1,919,647	73,930	3.9%	4	2	0	0	0	0			
循環器内科	273,326	242,219	31,107	12.8%	12,629	12,505	123	1.0%	3,006,466	2,610,775	395,691	15.2%	2,948,396	2,570,804	377,591	14.7%	170,015	191,380	-21,365	-11.2%	3,279,792	2,852,994	426,798	15.0%	206	203	0	0	0	0			
脳神経内科	284,996	233,250	51,747	22.2%	35,020	28,807	6,214	21.6%	714,267	615,843	98,425	16.0%	685,546	600,382	85,164	14.2%	62,283	63,559	-1,277	-2.0%	999,264	849,092	150,171	17.7%	0	0	0	0	0	0			
アレルギー科	49,035	41,037	7,998	19.5%	10,192	9,156	1,036	11.3%	23,163	3,293	19,870	603.4%	22,326	3,258	19,069	585.4%	60,669	60,325	345	0.6%	72,198	44,330	27,868	62.9%	0	0	0	0	0	0			
小児科	122,069	112,996	9,073	8.0%	10,623	10,604	19	0.2%	290,411	210,700	79,711	37.8%	276,301	208,071	68,230	32.8%	60,275	56,726	3,549	6.3%	412,480	323,696	88,783	27.4%	0	0	0	0	0	0			
外科	252,060	235,073	16,987	7.2%	30,321	27,922	2,399	8.6%	949,758	888,650	61,108	6.9%	915,446	855,341	60,105	7.0%	99,408	97,231	2,177	2.2%	1,201,818	1,123,723	78,095	6.9%	753	701	0	0	0	0			
乳腺外科	374,166	348,090	26,076	7.5%	39,188	38,172	1,016	2.7%	243,431	228,326	15,105	6.6%	228,227	215,604	12,623	5.9%	100,851	100,421	430	0.4%	617,597	576,416	41,181	7.1%	255	264	0	0	0	0			
呼吸器外科	46,399	34,816	11,582	33.3%	22,200	18,569	3,632	19.6%	146,140	127,881	18,259	14.3%	140,429	123,986	16,443	13.3%	135,943	106,700	29,242	27.4%	192,539	162,698	29,841	18.3%	93	87	0	0	0	0			
心臓血管外科	30,208	30,702	-494	-1.6%	11,326	10,784	542	5.0%	1,214,351	1,154,649	59,702	5.2%	1,198,318	1,143,131	55,187	4.8%	237,903	267,336	-29,433	-11.0%	1,244,558	1,185,351	59,207	5.0%	273	257	0	0	0	0			
脳神経外科	38,742	37,004	1,738	4.7%	13,277	13,103	174	1.3%	663,420	645,648	17,772	2.8%	651,530	632,129	19,401	3.1%	92,679	91,813	866	0.9%	702,162	682,651	19,510	2.9%	163	180	0	0	0	0			
整形外科	212,743	195,946	16,797	8.6%	9,397	8,781	616	7.0%	1,976,569	1,584,798	391,772	24.7%	1,916,026	1,544,968	371,057	24.0%	92,379	89,341	3,038	3.4%	2,189,312	1,780,744	408,568	22.9%	1,652	1,374	0	0	0	0			
形成外科	17,986	18,721	-735	-3.9%	5,916	5,962	-46	-0.8%	157,771	193,928	-36,156	-18.6%	153,700	187,758	-34,058	-18.1%	64,471	59,267	5,205	8.8%	175,757	212,649	-36,892	-17.3%	353	373	0	0	0	0			
皮膚科	47,431	40,344	7,087	17.6%	5,524	5,340	184	3.4%	121,120	92,553	28,567	30.9%	113,489	87,940	25,549	29.1%	49,279	48,910	369	0.8%	168,551	132,897	35,654	26.8%	161	163	0	0	0	0			
泌尿器科	248,899	241,875	7,024	2.9%	21,006	20,677	329	1.6%	613,526	636,913	-23,388	-3.7%	580,362	606,199	-25,837	-4.3%	79,995	75,927	4,068	5.4%	882,424	878,788	-16,364	-1.9%	571	585	0	0	0	0			
産婦人科	166,749	159,822	6,927	4.3%	8,688	8,440	249	2.9%	691,755	677,490	14,265	2.1%	655,009	645,470	9,540	1.5%	91,957	89,673	2,283	2.5%	858,503	837,312	21,191	2.5%	375	354	0	0	0	0			
眼科	103,432	93,091	10,341	11.1%	10,345	9,709	636	6.6%	75,442	73,472	1,970	2.7%	73,809	71,710	2,099	2.9%	114,079	108,160	5,919	5.5%	178,874	166,563	12,311	7.4%	443	416	0	0	0	0			
耳鼻いんこう科	167,820	164,263	3,556	2.2%	12,697	12,105	592	4.9%	274,431	250,924	23,506	9.4%	259,835	236,178	23,656	10.0%	72,096	67,770	4,326	6.4%	442,251	415,188	27,063	6.5%	292	225	0	0	0	0			
リハビリテーション科	130	103	27	26.7%	4,343	3,427	916	26.7%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	130	103	27	26.7%	0	0	0	0	0	0			
精神科	73,543	74,152	-610	-0.8%	6,668	6,480	188	2.9%	292,195	325,204	-33,008	-10.2%	287,462	319,513	-32,050	-10.0%	37,391	36,709	682	1.9%	365,738	399,356	-33,618	-8.4%	302	416	0	0	0	0			
放射線診断科	24,247	17,571	6,676	38.0%	36,352	81,347	-44,995	-55.3%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	24,247	17,571	6,676	38.0%	0	0	0	0	0	0			
放射線治療科	87,891	78,689	9,201	11.7%	28,361	27,533	828	3.0%	15,253	17,425	-2,173	-12.5%	15,087	17,089	-2,002	-11.7%	58,252	67,017	-8,765	-13.1%	103,143	96,115	7,029	7.3%	0	0	0	0	0	0			
歯科口腔外科	106,842	120,827	-13,984	-11.6%	7,513	7,707	-194	-2.5%	53,395	59,578	-6,183	-10.4%	51,980	58,256	-6,276	-10.8%	89,775	82,051	7,724	9.4%	160,237	180,404	-20,167	-11.2%	347	405	0	0	0	0			
救急科	445,346	423,226	22,120	5.2%	30,631	29,273	1,358	4.6%	1,102,539	1,172,045	-69,506	-5.9%	1,086,795	1,161,688	-74,893	-6.4%	115,063	114,059	995	0.9%	1,547,885	1,595,271	-47,386	-3.0%	3	1	0	0	0	0			
麻酔科	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0			
合計	5,063,737	4,704,585	359,153	7.6%	18,039	17,143	896	5.2%	16,891,061	15,863,993	1,027,067	6.5%	16,341,209	15,396,422	944,787	6.1%	89,529	88,723	806	0.9%	21,954,798	20,568,578	1,386,220	6.7%	6,352	6,104	0	0	0	0			

健診	単位/千円	人間ドック		健康診断		合計	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額
	令和5年度	2,455	182,747	9,486	74,684	11,941	257,431
	令和4年度	2,368	169,187	9,372	72,807	11,740	241,994
	増減	87	13,560	114	1,877	201	15,437
	増減率	3.7%	8.0%	1.2%	2.6%	1.7%	6.4%

9－2 中央部門業務報告

中央部門業務報告（放射線科部）

令和5年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一般撮影（平日）	胸腹・骨等	3570	3856	4191	4006	4199	3939	4256	4120	4309	4173	4099	4284	49002
	マンマ	158	183	192	205	232	204	223	209	219	198	186	225	2434
	マンモトーム	8	11	7	7	10	8	13	7	5	8	6	8	98
	骨密度	180	206	218	208	218	213	240	203	217	215	223	234	2575
	パノラマ	142	172	197	172	195	153	174	187	200	181	191	194	2158
フィルム関係	ポータブル	721	668	788	759	920	1030	862	777	821	1004	949	857	10156
	取り込み	368	346	401	334	401	326	414	390	368	403	405	408	4564
	出力	443	431	488	423	594	483	503	464	501	449	543	622	5944
計		5590	5873	6482	6114	6769	6356	6685	6357	6640	6631	6602	6832	76931
救急外来（平日）	一般撮影	179	164	195	199	270	213	180	183	198	226	184	181	2372
	救急ＣＴ	181	163	229	228	298	257	164	230	246	254	208	200	2658
	計	360	327	424	427	568	470	344	413	444	480	392	381	5030
一般/CT 病棟（休日・夜勤）	一般撮影	71	98	65	90	83	79	67	83	133	117	98	121	1105
	CT	43	47	41	60	44	42	43	42	59	69	39	56	585
	ポータブル	373	370	313	439	457	385	409	388	476	594	463	470	5137
	計	487	515	419	589	584	506	519	513	668	780	600	647	6827
救急外来（休日・夜勤）	一般撮影	561	646	622	768	691	730	713	637	811	726	586	605	8096
	救急ＣＴ	675	728	735	874	897	918	829	843	1017	944	757	830	10047
	MR I	39	37	37	54	45	44	33	56	51	50	28	43	517
	血管撮影	12	7	10	16	12	11	19	19	12	17	7	15	157
	ＴＶ 造影/透視	7	5	12	12	12	11	5	4	10	8	5	7	98
	その他	175	198	201	186	204	198	167	162	235	195	169	197	2287
	計	1469	1621	1617	1910	1861	1912	1766	1721	2136	1940	1552	1697	21202
手術室	ポータブル	212	186	210	198	253	200	233	220	234	208	220	224	2598
	術中イメージ	5	4	5	1	8	7	2	9	4	2	5	3	55
	計	217	190	215	199	261	207	235	229	238	210	225	227	2653
ＣＴ	外来	1388	1502	1521	1377	1430	1494	1586	1586	1587	1536	1516	1565	18088
	入院	430	456	470	469	505	444	552	488	547	523	485	518	5887
	造影検査件数	610	635	613	560	587	606	677	650	647	651	644	619	7499
	計	1818	1958	1991	1846	1935	1938	2138	2074	2134	2059	2001	2083	23975
ＴＶ室	胃ＴＶ（術後含）	37	35	60	70	83	80	66	59	61	46	48	43	688
	注腸（術後含）	3	2	1	1	5	4	4	4	1	2	1	2	30
消化器内科系	内視鏡併用検査	47	51	41	71	67	57	60	64	61	49	63	67	698
	造影/その他	12	20	22	17	15	16	10	18	8	12	16	3	169
外科系	内視鏡併用検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	造影/その他	20	20	17	31	24	14	28	14	22	18	26	21	255
泌尿器系	内視鏡併用検査	23	28	22	21	22	19	26	24	24	11	25	30	275
	造影/その他	23	26	29	28	26	19	32	26	22	20	18	19	288
整形系	ミエロ・ブロック/造影	5	12	10	10	13	6	7	5	4	6	8	4	90
	透視/その他	4	4	5	5	2	3	1	0	6	5	3	5	43
他診療科	造影/透視/その他	23	18	24	20	15	15	19	14	13	15	10	15	201
計		197	216	231	274	272	233	253	228	222	184	218	209	2737
血管撮影室	頭腹部系	15	16	14	15	15	19	24	25	13	16	28	16	216
	心臓系	131	125	126	136	137	118	143	146	146	176	142	178	1704
	その他	22	30	17	15	26	21	17	12	28	12	22	22	244
	計	168	171	157	166	178	158	184	183	187	204	192	216	2164
ハイブリッド室	頭腹部系	4	3	4	2	1	3	5	3	2	0	6	5	38
	心臓系	15	21	18	18	27	22	24	25	28	19	22	26	265
	整形系	5	4	9	2	6	3	5	3	3	6	7	3	56
	その他	1	0	0	4	1	1	2	2	0	0	0	1	12
	計	25	28	31	26	35	29	36	33	33	25	35	35	371
MR I	外来	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	入院	600	668	733	712	757	701	711	723	846	741	752	794	8738
	造影検査件数	110	124	128	151	139	121	125	123	152	141	137	143	1594
	計	124	151	150	130	158	123	123	143	158	131	145	168	1704
計		710	792	861	863	896	822	836	846	998	882	889	937	10332
R I		R I 計	127	122	122	99	115	104	117	135	119	115	126	1416
PET・CT		PET・CT 計	74	78	96	91	106	73	87	100	73	70	107	1037
治療	新規計画人数 計	0	0	0	4	20	22	28		24	17	22	17	182
	治療件数 計	0	0	0	0	284	359	568	760	503	473	510	464	3921

中央部門業務報告(検査部)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
検 体 検 査	一般(フランチ)	件数(項目数)	8,250	8,628	9,686	9,126	9,788	9,235	9,200	9,719	9,177	8,876	9,562	110,306
	血液	件数(検体数)	29,896	31,682	33,470	33,842	35,676	33,256	34,448	36,189	35,855	33,169	34,545	405,482
	血液凝固(フランチ)	件数(項目数)	8,164	8,577	8,854	9,061	9,439	8,637	9,321	9,999	9,834	9,061	9,482	109,425
	生化学(フランチ)	件数(項目数)	168,599	177,883	190,562	192,714	202,793	191,257	197,706	189,837	200,712	188,278	196,567	2,299,393
	免疫化学(フランチ)	件数(項目数)	7,631	8,136	8,925	8,673	8,924	8,523	8,867	9,501	9,202	8,659	9,337	105,437
	一般細菌(培養同定)	件数(検体数)	1,522	1,630	1,756	2,025	1,989	2,142	1,982	1,720	2,067	1,722	1,693	22,219
	感受性検査	件数(検体数)	391	429	373	495	457	517	400	400	544	439	401	5,486
	抗酸菌	件数(検体数)	116	120	125	135	124	123	107	129	95	94	80	1,361
	血液カス(フランチ)	件数(検体数)	1,363	1,377	1,667	1,684	1,702	1,593	1,495	1,402	1,738	1,418	1,511	18,702
	合計	件数	225,932	238,462	255,418	257,755	270,945	255,296	263,643	272,186	269,224	251,716	263,178	3,077,811
	心電図	件数	2,676	2,618	2,962	2,965	3,106	2,893	3,116	3,007	3,208	3,005	3,150	35,966
	負荷心電図	件数	9	4	12	17	28	14	10	8	5	12	16	144
	ホルター心電図	件数	123	113	116	120	131	112	160	156	136	129	146	1,585
	血圧脈波検査	件数	121	109	105	115	131	106	121	107	92	97	128	1,349
	自律神経検査	件数	29	27	39	29	33	38	53	31	32	24	34	399
	呼吸機能	件数	284	298	353	350	381	344	345	372	295	334	289	4,010
	筋電図検査	件数	6	7	8	4	4	3	2	2	4	4	1	49
生 理 検 査	脳波	件数	71	54	60	52	67	53	70	55	60	54	60	717
	神経生理検査	件数	69	64	64	73	81	83	71	81	71	70	74	881
	OAE	件数	46	43	55	57	64	59	53	40	67	42	40	613
	体流量測定	件数	1	2	1	1	5	4	1	0	2	1	1	19
	SPP	件数	4	8	7	5	5	10	4	11	11	4	13	94
	耳鼻科検査	件数	646	624	706	562	651	595	637	680	642	619	662	7,731
	心エコー	件数	656	687	743	693	726	668	744	711	736	736	760	8,615
	その他エコー	件数	850	904	946	942	1,036	983	1,065	1,030	898	944	950	11,569
	心カテ	件数	126	125	129	125	137	116	139	145	172	151	180	1,702
	アレルギー	件数	194	210	287	272	286	296	268	225	278	234	237	3,012
	合計	件数	5,911	5,897	6,593	6,382	6,855	6,377	6,859	6,661	6,709	6,460	6,741	78,455
	組織診断	件数	671	620	722	652	663	623	662	695	666	661	669	7,963
	迅速診断	件数	25	27	31	28	29	30	19	31	33	25	29	339
	細胞診断	件数	333	356	434	379	384	381	426	400	380	399	400	4,684
	その他	件数	59	61	64	51	64	55	66	84	47	66	65	770
	病理解剖	件数	1	2	2	3	8	1	1	2	0	2	0	23
輸 血 関 連 検 査	合計	件数	1,089	1,066	1,250	1,113	1,148	1,090	1,191	1,097	1,126	1,153	1,163	13,665
	血液型	件数	671	678	719	766	813	684	797	782	834	858	737	8,051
	不規則抗体	件数	626	676	721	757	776	683	756	794	840	772	812	9,071
	クロスマッチ	件数	366	375	394	408	432	364	459	483	515	475	501	5,274
	直接・間接クーラムス	件数	31	19	26	34	52	23	25	37	31	40	40	389
	輸血副反応	件数	6	6	14	9	11	6	13	8	4	4	8	102
	自己血	件数	2	1	1	0	2	0	1	1	0	1	0	9
	血漿交換	件数	1	0	0	0	0	0	8	1	2	10	6	28
	合計	件数	1,703	1,755	1,875	1,974	2,086	1,760	2,059	2,096	2,264	2,039	2,172	24,017
	Ir-RBC	単位	732	494	768	688	648	602	782	839	717	765	945	8,704
	FFP	単位	1,041	210	354	276	195	255	648	432	363	507	720	5,277
	Ir-PC	単位	720	600	895	955	935	760	1,135	1,135	1,065	1,165	1,085	11,610
	合計	単位	2,493	1,304	2,017	1,919	1,778	1,617	2,310	2,406	2,145	2,437	2,750	25,591
ア レ ル ギ ー 関 連 検 査	令和5年度より オンライン化 生理検査アレルギー へ移設													
	時間外院内検査	患者数	2,310	2,641	2,672	3,186	3,113	3,093	2,819	2,803	3,766	2,845	3,073	35,847
	外来採血患者	患者数	5,967	6,267	6,388	6,062	6,455	6,318	6,551	6,563	6,776	6,364	6,093	76,231
	入院患者採血管準備数	患者数	3,630	3,836	4,199	5,675	4,741	4,240	4,473	4,335	4,681	4,953	4,316	53,414
	尿薬呼吸試験	患者数	21	21	11	20	17	17	21	15	19	13	13	206
	治療件数	患者数	19	22	10	15	24	18	24	24	24	28	14	240
	院内検査業務委託	件数(項目数)	71,136	78,450	81,202	81,006	88,645	93,551	82,462	80,995	87,798	80,988	86,690	999,406
	外注検査業務委託	件数(項目数)	11,275	11,934	11,996	12,132	11,863	2,214	11,045	11,286	12,859	10,889	12,148	129,919
	委託業務	件数(項目数)	82,411	90,384	93,198	92,012	100,508	95,765	93,507	92,281	99,096	91,877	98,838	1,129,322
	診療連携	件数	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	10,000

心臓カテーテル検査に3名、耳鼻科に1名、アレルギーセンターに1名、それぞれ検査技師を派遣している。
心臓カテーテルは同時に4列で稼働することもある。

中央部門業務報告(処方箋枚数)

令和5年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院 処方	11,024	11,354	12,054	12,485	12,752	11,811	12,608	11,863	13,330	12,398	12,072	12,482	146,233
入院 注射	8,834	11,535	11,940	13,467	13,742	13,219	13,274	12,371	13,502	14,216	12,810	13,938	152,848
外来 処方	40	51	50	51	56	41	35	38	45	42	34	43	526
外来 時間外処方	452	420	505	657	617	618	532	521	675	562	487	467	6,513
外来 注射	2,041	2,109	2,282	2,295	2,350	2,164	2,247	2,342	2,330	2,227	2,210	2,258	26,855
院外処方箋	9,416	9,904	10,518	9,812	10,208	9,890	10,142	10,008	10,629	9,925	9,650	10,266	120,368
抗がん剤調製件数	576	563	595	678	604	563	588	587	616	627	612	593	7,202
TPN調製件数	68	48	5	27	52	16	38	41	35	63	48	19	460
薬剤管理指導算定件数	1,730	1,772	1,939	1,988	2,103	1,667	2,005	1,915	2,001	1,992	1,829	1,874	22,815
薬剤管理指導麻薬加算	28	18	33	28	32	11	17	27	24	27	16	30	291
退院時指導算定件数	650	659	818	735	787	590	21	19	22	18	24	30	4,373
がん指導管理料ハ算定件数	13	24	14	12	15	6	7	13	7	21	12	16	160
特定薬剤治療管理料2算定件数	9	12	12	11	11	7	8	11	13	13	12	14	133
連携充実加算算定件数	85	80	52	70	84	60	76	77	56	77	63	62	842

中央部門業務報告（栄養課）

令和5年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般食	件数	17,059	16,729	18,047	20,566	22,381	20,279	20,335	19,121	19,713	19,635	19,742	20,578	234,185
治療食	件数	12,554	13,242	13,927	14,763	14,526	14,282	14,646	14,094	15,400	15,725	14,717	15,679	173,555
調乳	件数	309	337	480	405	330	400	375	164	588	526	340	484	4,738
栄養相談	件数	335	355	380	386	351	343	379	374	379	340	361	368	4,351
合計	件数	30,257	30,663	32,834	36,120	37,588	35,304	35,735	33,753	36,080	36,226	35,160	37,109	416,829

中央部門業務報告(リハビリテーション部)

令和5年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
リ ハ ビ リ	理学療法	件数	3,703	3,709	4,105	4,308	4,577	4,242	4,201	3,840	4,037	4,104	4,168	49,017
	作業療法	件数	1,368	1,456	1,565	1,422	1,622	1,515	1,648	1,553	1,584	1,313	1,354	17,958
	言語聴覚療法	件数	450	485	562	512	580	568	542	559	560	669	679	6,827
	合計	件数	5,521	5,650	6,232	6,242	6,779	6,325	6,391	5,952	6,181	6,086	6,201	73,802

中央部門業務報告(内視鏡室)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
上部消化管内視鏡	6,002	4,785	5,462	5,989	5,920
(内ドック件数)	2,115	1,805	2,030	2,157	2,179
下部消化管内視鏡	2,697	2,122	2,477	2,517	2,660
(内ドック件数)	145	101	130	141	144
気管支鏡	126	95	87	134	158
ERCP	481	371	370	411	572
超音波内視鏡	88	226	224	154	162

中央部門業務報告（透析室） 令和5年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
透 析	血液浄化療法 件数	262	333	337	335	347	331	274	343	356	291	181	240	3,630

中央部門業務報告（手術室）

令和5年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
全身麻酔	330	325	352	340	404	362	351	345	377	362	375	392	4,315
局所麻酔	126	130	153	156	153	143	153	153	154	125	149	153	1,748
脊椎麻酔	17	9	9	10	13	10	28	11	13	24	26	16	186
脊椎・硬膜外併用	9	7	14	5	8	5	9	10	10	14	4	8	103
合計	482	471	528	511	578	520	541	519	554	525	554	569	6,352

9－3 決算書

損 益 計 算 書（令和5年度）

収 益		予算(A)	R5年決算(B)	R4年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	対昨年度増減率
みなと赤十字病院事業収益		21,687,151,000	23,036,310,441	22,176,208,193	1,349,159,441	860,102,248	3.88%
医業収益	医業収益	20,941,400,000	22,059,000,185	20,650,856,829	1,117,600,185	1,408,143,356	6.82%
	入院収益	15,316,400,000	16,290,739,189	15,291,012,699	974,339,189	999,726,490	6.54%
	患者延べ数(人)	174,050	182,525	173,534	8,475	8,991	5.18%
	1日平均(人)	476	499	475	23	23	4.89%
	診療単価(円)	88,000	89,252	88,115	1,252	1,137	1.29%
	病床利用率(%)	75.21%	78.66%	74.99%	-0.30ポイント	3.01ポイント	4.89%
	平均在院数(日)					0.00	
	外来収益	4,845,000,000	4,985,729,344	4,625,342,046	140,729,344	360,387,298	7.79%
	患者延べ数(人)	285,000	280,715	274,431	-4,285	6,284	2.29%
	1日平均(人)	1,173	1,155	1,129	-18	26	2.29%
	診療単価(円)	17,000	17,761	16,854	761	907	5.38%
	室料差額収益	420,000,000	501,213,480	395,146,270	81,213,480	106,067,210	26.84%
	保健予防活動収益	297,801,000	289,695,330	278,218,323	-8,105,670	11,477,007	4.13%
	受託検査・施設利用収益	6,579,000	8,112,450	6,807,950	1,533,450	1,304,500	19.16%
	その他の医業収益	114,886,000	44,090,602	113,886,387	-70,795,398	-69,795,785	-61.29%
	保険等査定減	-59,266,000	-60,580,210	-59,556,846	-1,314,210	-1,023,364	1.72%
	医業外収益(医療社会事業収益含む)	745,751,000	977,310,256	1,525,265,834	231,559,256	-547,955,578	-35.93%
	受取利息	0	463,769	290,411	463,769	173,358	
	本部繰入金	4,430,000	4,640,000	4,776,500	210,000	-136,500	-2.86%
	他会計繰入金	0	0	0	0	0	
	運営費補助金等収益	356,227,000	514,781,433	1,110,917,003	158,554,433	-596,135,570	-53.66%
	施設設備費補助金等収益	108,051,000	111,018,467	140,823,108	2,967,467	-29,804,641	-21.16%
	患者外給食収益	0	0	0	0	0	
	その他の医業外収益	277,043,000	346,406,587	268,458,812	69,363,587	77,947,775	29.04%
	特別利益	0	0	85,530	0	-85,530	-100.00%
	固定資産売却益	0	0	85,530	0	-85,530	-100.00%
	貸倒引当金戻入益	0	0	0	0	0	
	その他前期損益修正益	0	0	0	0	0	
	その他特別利益	0	0	0	0	0	

費 用		予算(A)	R5年決算(B)	R4年決算(C)	予算差引額(B-A)	昨年度比(B-C)	対昨年度増減率
みなと赤十字病院事業費用		22,748,701,000	22,993,808,643	21,962,024,746	245,107,643	1,031,783,897	4.70%
医業費用	医業費用	22,374,718,000	22,648,389,798	21,527,286,111	273,671,798	1,121,103,687	5.21%
	材料費	6,278,231,000	6,529,857,862	6,032,239,804	251,626,862	497,618,058	8.25%
	医薬品費	2,720,288,000	2,750,301,398	2,608,376,782	30,013,398	141,924,616	5.44%
	診療材料費	3,333,871,000	3,523,772,262	3,189,315,317	189,901,262	334,456,945	10.49%
	給食材料費	125,648,000	140,195,843	124,674,308	14,547,843	15,521,535	12.45%
	医療消耗備品費	94,236,000	112,617,339	102,456,242	18,381,339	10,161,097	9.92%
	棚卸減耗損・評価損	4,188,000	2,971,020	7,417,155	-1,216,980	-4,446,135	-59.94%
	給与費	10,516,639,000	10,920,876,056	10,398,869,905	404,237,056	522,006,151	5.02%
	委託費	1,970,823,000	2,074,868,391	2,006,918,530	104,045,391	67,949,861	3.39%
	設備関係費	2,376,911,000	2,261,930,810	2,143,689,803	-114,980,190	118,241,007	5.52%
	減価償却費	1,051,035,000	958,920,092	768,216,362	-92,114,908	190,703,730	24.82%
	器機賃借料	100,508,000	110,186,573	101,664,653	9,678,573	8,521,920	8.38%
	指定管理者負担金他	682,373,000	681,882,760	683,867,830	-490,240	-1,985,070	-0.29%
	修繕費	201,104,000	151,565,755	193,748,823	-49,538,245	-42,183,068	-21.77%
	器機保守料	341,287,000	358,644,642	395,544,618	17,357,642	-36,899,976	-9.33%
	その他	604,000	730,988	647,517	126,988	83,471	12.89%
	研究研修費	46,650,000	55,362,552	43,874,724	8,712,552	11,487,828	26.18%
	経費	1,185,464,000	805,494,127	901,693,345	-379,969,873	-96,199,218	-10.67%
	通信費	28,000,000	26,437,631	28,768,747	-1,562,369	-2,331,116	-8.10%
	消耗品費	74,000,000	80,541,510	72,738,499	6,541,510	7,803,011	10.73%
	水道光熱費	831,000,000	467,293,227	578,634,633	-363,706,773	-111,341,406	-19.24%
	賃借料	54,000,000	54,680,291	52,125,362	680,291	2,554,929	4.90%
	租税公課	31,914,000	29,103,077	35,275,630	-2,810,923	-6,172,553	-17.50%
	その他	166,550,000	147,438,391	134,150,474	-19,111,609	13,287,917	9.91%
	医業外費用(医療奉仕費用含む)	373,983,000	338,329,897	422,748,131	-35,653,103	-84,418,234	-19.97%
	支払利息	2,608,000	2,302,156	3,921,814	-305,844	-1,619,658	-41.30%
	患者外給食用材料費	1,052,000	1,118,340	1,058,949	66,340	59,391	5.61%
	看護師等委託養成費	14,800,000	12,000,000	15,400,000	-2,800,000	-3,400,000	-22.08%
	診療費減免額	5,947,000	4,813,290	5,905,110	-1,133,710	-1,091,820	-18.49%
	本部繰出金	20,425,000	17,767,505	19,376,251	-2,657,495	-1,608,746	-8.30%
	他会計繰出金	2,603,000	1,742,587	3,262,418	-860,413	-1,519,831	-46.59%
	退職給付債務変更時差異	0	0	0	0	0	
	その他医業外費用	326,548,000	298,586,019	373,823,589	-27,961,981	-75,237,570	-20.13%
	特別損失	0	7,088,948	11,990,504	7,088,948	-4,901,556	-40.88%
	固定資産売却損	0	0	0	0	0	
	固定資産除却損	0	7,088,948	11,990,504	7,088,948	-4,901,556	-40.88%
	前期損益修正損	0	0	0	0	0	
	その他特別損失	0	0	0	0	0	
	法人税等	0	0	0	0	0	

経常損益(特別収支を除いたもの)	-1,061,550,000	49,590,746	226,088,421	1,111,140,746	-176,497,675	-78.07%
医業損益	-1,433,318,000	-589,389,613	-876,429,282	843,928,387	287,039,669	-32.75%
純損益	-1,061,550,000	42,501,798	214,183,447	1,104,051,798	-171,681,649	-80.16%

貸借対照表

令和6年 3月31日

(施設名) 横浜市立みなと赤十字病院

(単位：円)

資 産 の 部				負 債 及 び 純 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産				1. 流 動 負 債			
現 金		17,475,531		買 掛 金	1,206,554,847		
預 金		2,414,872,263		未 払 金	1,653,189,222		
医 業 未 収 金	3,817,205,662			短 期 借 入 金	288,800,000		
貸 倒 引 当 金	32,018,939	3,785,186,723		未 払 費 用	78,293,046		
未 収 金		189,318,292		未 払 法 人 税 等	0		
有 価 証 券		0		前 受 金	2,805,000		
医 薬 品		71,421,371		預 り 金	15,745,488		
診 療 材 料		0		職 員 預 り 金	102,339,591		
給 食 用 材 料		2,082,150		前 受 収 益	0		
貯 蔵 品		59,621		賞 与 引 当 金	507,613,780		
前 渡 金		0		資 産 除 去 債 務	0		
前 払 費 用		37,427,742		そ の 他 の 流 動 負 債	141,353,580		
未 収 収 益		3,118,360		流 動 負 債 合 計		3,996,694,554	
短 期 貸 付 金		0					
繰 延 税 金 資 産		0		2. 固 定 負 債			
そ の 他 の 流 動 資 産		156,225,786		長 期 借 入 金	100,000,000		
流 動 資 産 合 計			6,677,187,839	長 期 未 払 金	5,378,805		
				預 り 出 資 金	0		
2. 固 定 資 産				退 職 交 付 受 入 金	0		
(1) 有 形 固 定 資 産				退 職 給 付 引 当 金	5,645,335,143		
建 物	128,259,810			医 療 訴 訟 引 当 金	0		
建物減価償却累計額	39,743,660	88,516,150		長 期 前 受 補 助 金 等	352,306,385		
建 物 付 属 設 備	1,633,237,881			資 産 除 去 債 務	0		
建物付属設備減価償却累計額	577,507,150	1,055,730,731		そ の 他 の 固 定 負 債	0		
構 築 物	20,522,740			固 定 負 債 合 計		6,103,020,333	
構築物減価償却累計額	16,370,874	4,151,866					
医 療 用 器 械 備 品	7,974,246,060			負 債 合 計			10,099,714,887
医療用器械備品減価償却累計額	6,209,173,181	1,765,072,879					
そ の 他 の 器 械 備 品	1,713,627,095			3. 基 本 金		15,986,453	
その他の器械備品減価償却累計額	1,528,768,403	184,858,692					
車 両	1,615,550			補 助 金 等			
車両減価償却累計額	841,432	774,118		本 社 交 付 金	0		
放 射 性 同 位 元 素	0			支 部 繰 入 金	0		
放射性同位元素減価償却累計額	0	0		そ の 他 の 繰 入 金	0		
その他の有形固定資産	66,871,500			補 助 金	0		
その他の有形固定資産減価償却累計額	64,142,491	2,729,009		寄 付 金	54,040,000		
土 地		0		固定資産再評価益(損)金	2,566,395		
建 設 仮 勘 定		0		固定資産処分益(損)金	0		
有形固定資産合計		3,101,833,445		4. 補 助 金 等 合 計		56,606,395	
(2) 無 形 固 定 資 産				利 益 剰 余 金			
借 地 権		0		当期末処分利益(損失)	3,193,591,771		
ソ フ ト ウ ェ ア		58,265,711		5. 利 益 剰 余 金 合 計		3,193,591,771	
その他の無形固定資産		20,125					
無形固定資産合計		58,285,836		有価証券評価差額金		0	
(3) そ の 他 の 資 産				純 資 産 合 計			3,266,184,619
有 価 証 券		100,000,000					
長 期 貸 付 金		71,200,000					
預 金		0					
長 期 未 収 金		0					
長 期 前 払 費 用		41,526					
施設整備準備積立金		0					
病院建物建設資金出資金		845,301,710					
病院財政調整事業資金出資金		375,888,237					
出 資 金		217,850					
退 職 拠 出 金		2,135,933,013					
前 払 年 金 費 用		0					
預 託 金		10,050					
繰 延 税 金 資 産		0					
そ の 他 の 固 定 資 産		0					
その他の資産合計		3,528,592,386					
固 定 資 産 合 計			6,688,711,667				
資 産 合 計			13,365,899,506	負債及び純資産合計			13,365,899,506

令和5年度キャッシュ・フロー計算書

(単位:円)

	金 額
1. 業務活動によるキャッシュ・フロー	
税引前当期純利益	42,501,798
減価償却費	965,578,334
所有有形固定資産減価償却費	766,759,034
リース有形固定資産減価償却費	189,428,035
所有無形固定資産減価償却費	9,391,265
リース無形固定資産減価償却費	0
長期前払費用減価償却費	0
貸倒引当金の増減	446,997
賞与引当金の増減	35,001,803
医療訴訟引当金の増減	0
退職給付引当金の増減	294,229,352
退職拠出金の増減	-222,095,908
前払年金費用の増減	0
退職交付受入金の増減	0
その他の引当金の増減	0
施設設備補助金等収益	-117,676,707
受取利息	-463,769
支払利息	2,302,156
有形固定資産売却損	0
有形固定資産除却損	7,088,948
無形固定資産売却損	0
無形固定資産除却損	0
前期損益修正損	0
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	0
その他	0
その他特別損失	0
有形固定資産売却益	0
無形固定資産売却益	0
前期損益修正益	0
固定資産取得価額修正	0
減価償却費修正	0
その他	0
その他特別利益	0
医業未収金の増減	-280,470,479
未収金の増減	431,055,044
医薬品の増減	-4,667,708
診療材料の増減	0
給食用材料の増減	-378,921
貯蔵品の増減	3,633
前渡金の増減	0
前払費用の増減	5,750,162
未収収益の増減	-551,911
その他流動資産の増減	68,773,723
買掛金の増減	216,887,044
未払金の増減	-39,100,000
未払費用の増減	5,971,489
前受金の増減	-6,328,854
預り金の増減	3,355,351
職員預り金の増減	38,498,810
前受収益の増減	0
その他の流動負債の増減	-19,323,056
その他	12,000,000
小計	1,438,387,331
利息の受取額	626,817
利息の支払額	-2,302,156
法人税等の支払額	0
業務活動によるキャッシュ・フロー (A)	1,436,711,992

2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	0
定期預金の払戻による収入	0
有価証券の取得による支出	-100,000,000
有価証券の償還等による収入	0
所有有形固定資産の取得による支出	-1,570,002,357
所有有形固定資産の売却による収入	0
所有無形固定資産の取得による支出	-34,502,600
所有無形固定資産の売却による収入	0
長期前払費用の取得による支出	0
施設設備補助金等の受入による収入	97,376,780
短期貸付金の増減	0
長期貸付による支出	-21,900,000
長期貸付金の回収による収入	2,100,000
病院建物建設資金出資金の払込による支出	-37,171,542
病院建物建設資金出資金の返還による収入	0
病院財政調整事業資金出資金の払込による支出	-8,260,342
病院財政調整事業資金出資金の返還による収入	0
出資金の払込による支出	0
出資金の返還による収入	0
預託金の預入による支出	0
預託金の払戻による収入	0
その他の固定資産による支出	0
その他の固定資産による収入	0
その他	0
投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	-1,672,360,061
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の増減	0
長期借入による収入	100,000,000
長期借入金の返済による支出	-337,600,000
リース債務未払金の返済による支出	-189,652,361
預り出資金の受入による収入	0
預り出資金の払戻による支出	0
その他の固定負債による支出	0
その他の固定負債による収入	0
財務活動によるキャッシュ・フロー (C)	-427,252,361
4. 現金及び現金同等物の増加額 (A+B+C)	-662,900,430
5. 現金及び現金同等物期首残高	3,095,248,224
6. 現金及び現金同等物期末残高	2,432,347,794
チェック	0

※ 病院収益合計	23,036,310,441
※ 病院費用合計	22,993,808,643
※ 法人税等計	0